

令和6年度

KENDAI縁結びフォーラム
「多様な学力観に基づいた島根県の中学生の学力と
家庭環境に関する分析」

令和7年2月14日・島根県立大学浜田キャンパス

角能ゼミ

(地域政策学部地域政策学科地域公共コース・2024年度
2年次ゼミ・3年次ゼミ)

沖田桜里・甲斐葵大・春日歩・田中綾音・長尾風河・中野優・野村岳央・宮脇大空・村上愛実・
安達麻衣・浦瀧翔太・加藤駿介・瀬尾陽未・時耕陽菜・豊田彩衣里・中埜舞優・正木倫音・古谷莉深・
角能(指導教員)

子どもに将来希望する
働き方
：得意なこと、勉強したことを生かす職場？
労働条件いい職場？

一致？それとも乖離？

他者への
配慮
=ケアの
倫理

創造力

地域の
子育て支援

家庭での
育児の助け合い
⇔ワンオペ育児

中学生の
多様な経験
：どのような
経験が多い？

中学生の多様な学力
：どれが得意？

基礎学力
(認知的
学力)

家庭での親子関係
：自分で考えさせる？
理由を説明して教育？
子どもの意見を聞く？
子どもの意欲を引き出している？
親の感情をぶつけている？

機会は平等？それとも
親子で連動？

家族のケア
の経験

保護者の
子ども時代の
多様な経験

I：問い（探求する視点）

- 1：島根県A市の中学生は、どのような領域の学力が比較的得意で、どのような領域の学力が比較的苦手なのか。
- 2：1の多様な学力の習得のための手段として、中学生はどのような経験をより多くしていて、どのような経験がより少ないのか？
- 3：2の経験に際して、どのような負担が家庭に発生しているのか。
- 4：1の多様な学力の習得の背景として、家庭でどのような教育、親子関係が存在しているのか。
- 5：1の多様な学力の習得の背景として、どのような種類の家族のケアを中学生はより多く担っているのか。
- 6：1の多様な学力の先にある将来の職場について、どのような職場環境で子どもが働くことを保護者は希望しているのか。
- 7：2について、どのような経験において、保護者の経験が同様の経験を子どもが担うこととよりつながっているのか（どのような経験において、家庭環境による機会の不平等が生じているのか）。
- 8：家庭での子育ての助け合いや家庭外からの支援のあり方によって、中学生のどのような学力の形成がより左右されているのか。

Ⅱ：問題関心・背景

1：将来の職業・家庭生活や社会生活において、子どもの思春期・幼少期の生育環境による不利を背負わないようにする必要性。

=子どもの機会の平等を保つ必要性。

2：将来の職業・家庭生活や社会生活において求められる技能が多様化。

・認知的な学力に加えて、創造力や他者を支援・他者に配慮する力（松田2016：110）などの（非認知的な学力）（濱田・金2018：9）も求められる傾向。

=学力が多様化（多様な学力）。

⇔

3：多様な学力の育成のための手段である経験について、親子で連動する（機会の不平等の）可能性（今井2024：69）。

⇔

4：多様な学力の育成は、家族内での助け合い（≠ワンオペの子育て）、地域からの支援によっても可能。

Ⅱ：問題関心・背景

→

- ・島根県の中学生の多様な学力について、中学生のどのような経験が、保護者の経験によってより影響を受けているのか？
- ・どのような学力が、家庭内での助け合いや地域からの支援の有無によって、より左右されているのか？。

IV:調査対象者(分析に使用するデータ)

▶ 調査対象者

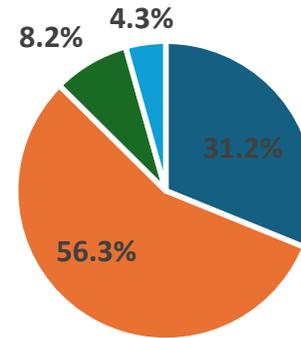
- 島根県A市の中学生の保護者に対するオンラインアンケート調査のデータ。
- 2024年10月11日～11月18日にかけてオンラインアンケート調査を実施。
(A市の中学生の保護者全員に向けて、URLを発信)
- 回答完了者、途中まで回答した方合計して231件が回答。

V：分析の結果：アンケートの結果

【家庭での子どもとのかかわり方】

I：子どもが良くないことをしたとき、子どもの意見を聞くという保護者が大多数。
ex 「とてもあてはまる」31.2%、「どちらかというにあてはまる」56.3%。

Q.3a 子どもが良くないことをしたときに、
こどもの意見を聞く



- とてもあてはまる
- どちらかといえばあてはまる
- あまりあてはまらない
- 無回答

V：分析の結果：アンケートの結果

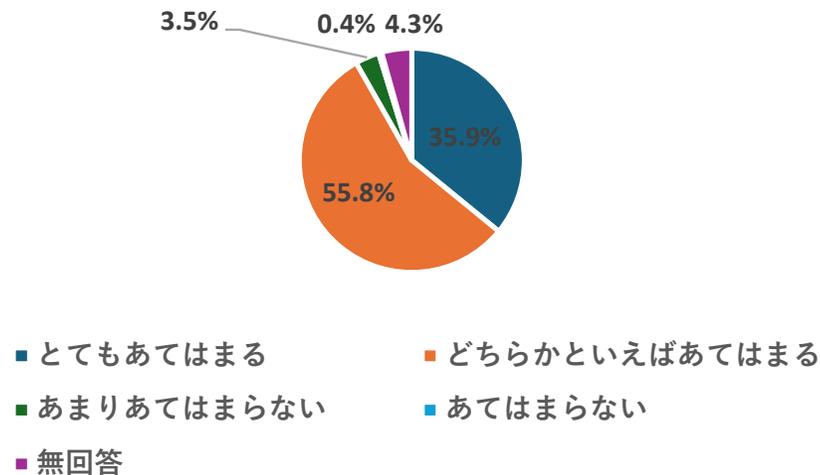
【家庭での子どもとのかかわり方】

2：子どもが良くないことをしたとき、理由を説明したうえで注意する保護者が大多数。

ex 9割以上の保護者が理由を説明したうえで注意すると回答。

「とてもあてはまる」35.9%、「どちらかといえばあてはまる」55.8%。

Q.3b 子どもが良くないことをしたときに、
理由を説明したうえで注意をする



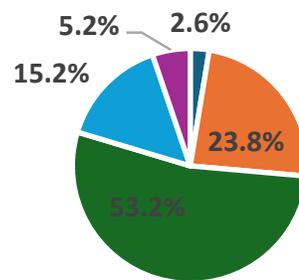
V：分析の結果：アンケートの結果

【家庭での子どもとのかかわり方】

3：子どもが良くないことをしたとき、子どもに自分で考えさせるために、親があえて口出しをしない保護者は少数。

ex 「とてもあてはまる」2.6%、「どちらかといえばあてはまる」23.8%。

Q.3c 子どもが良くないことをしたときに、
自分で考えさせるために、あえて口出しをしない



- とてもあてはまる
- どちらかといえばあてはまる
- あまりあてはまらない
- あてはまらない
- 無回答

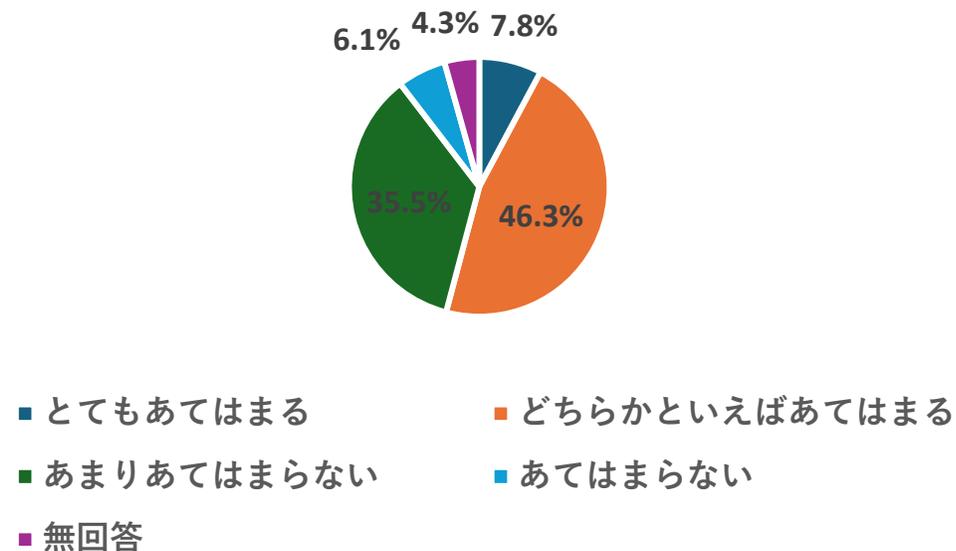
V：分析の結果：アンケートの結果

【家庭での子どもとのかかわり方】

4：子どもが良くないことをしたとき、怒りの感情をぶつける保護者も過半数。

ex 「とてもあてはまる」7.8%、「どちらかといえばあてはまる」46.3%。

Q.3d 子どもが良くないことをしたときに、
怒りの感情を出す



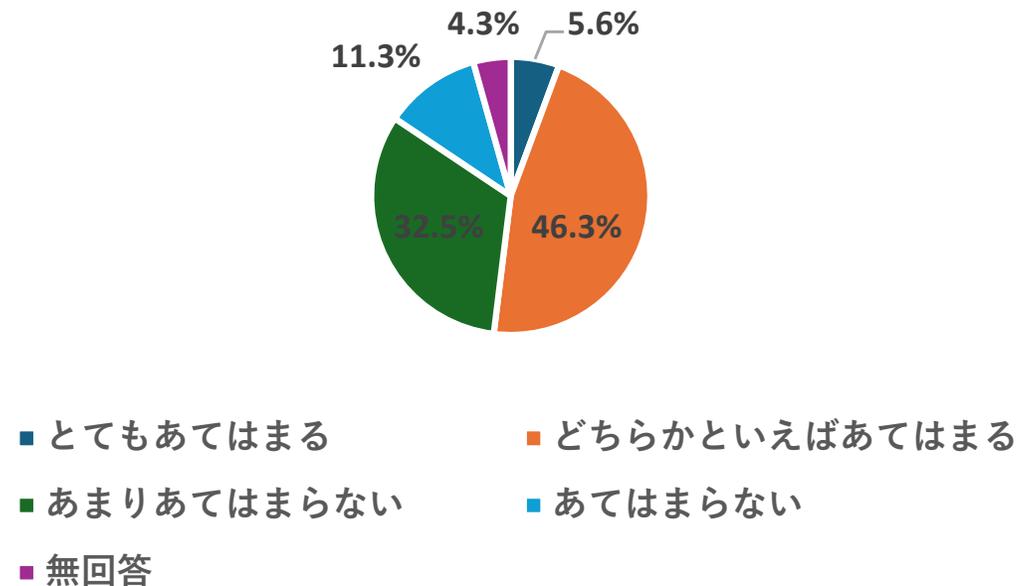
V：分析の結果：アンケートの結果

【家庭での子どもとのかかわり方】

5：保護者がつかれているとき、子どもから距離を置いた対応をするケースも過半数。

ex 「とてもあてはまる」5.6%、「どちらかといえばあてはまる」46.3%。

Q.3e 疲れているときの子どもからの距離を置いた対応



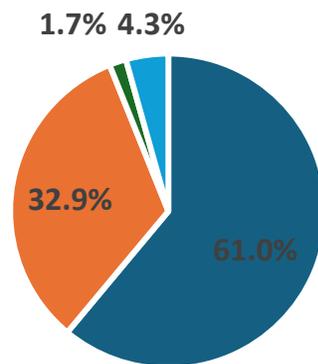
V：分析の結果：アンケートの結果

【家庭での子どもとのかかわり方】

6：大多数の保護者が、子どもがよいことをしたときにはできるだけほめている。

ex 「とてもあてはまる」61.0%、「どちらかといえばあてはまる」32.9%。

Q.3f 子どもがよいことをしたときに
できるだけほめるようにする



- とてもあてはまる
- どちらかといえばあてはまる
- あまりあてはまらない
- 無回答

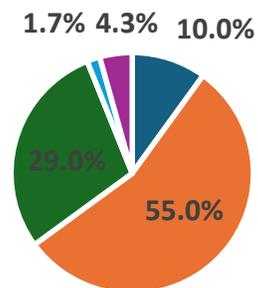
V：分析の結果：アンケートの結果

【家庭での子どもとのかかわり方】

7：自分がしてほしい行動を子どもがとらないとき、意欲を引き出す言葉をかける保護者が過半数。

ex 65%の保護者が意欲を引き出す言葉をかけると回答（「とてもあてはまる」10%、「どちらかといえばあてはまる」55%。

Q.3g してほしい行動をしない子どもに対する、意欲を引き出す言葉がけ



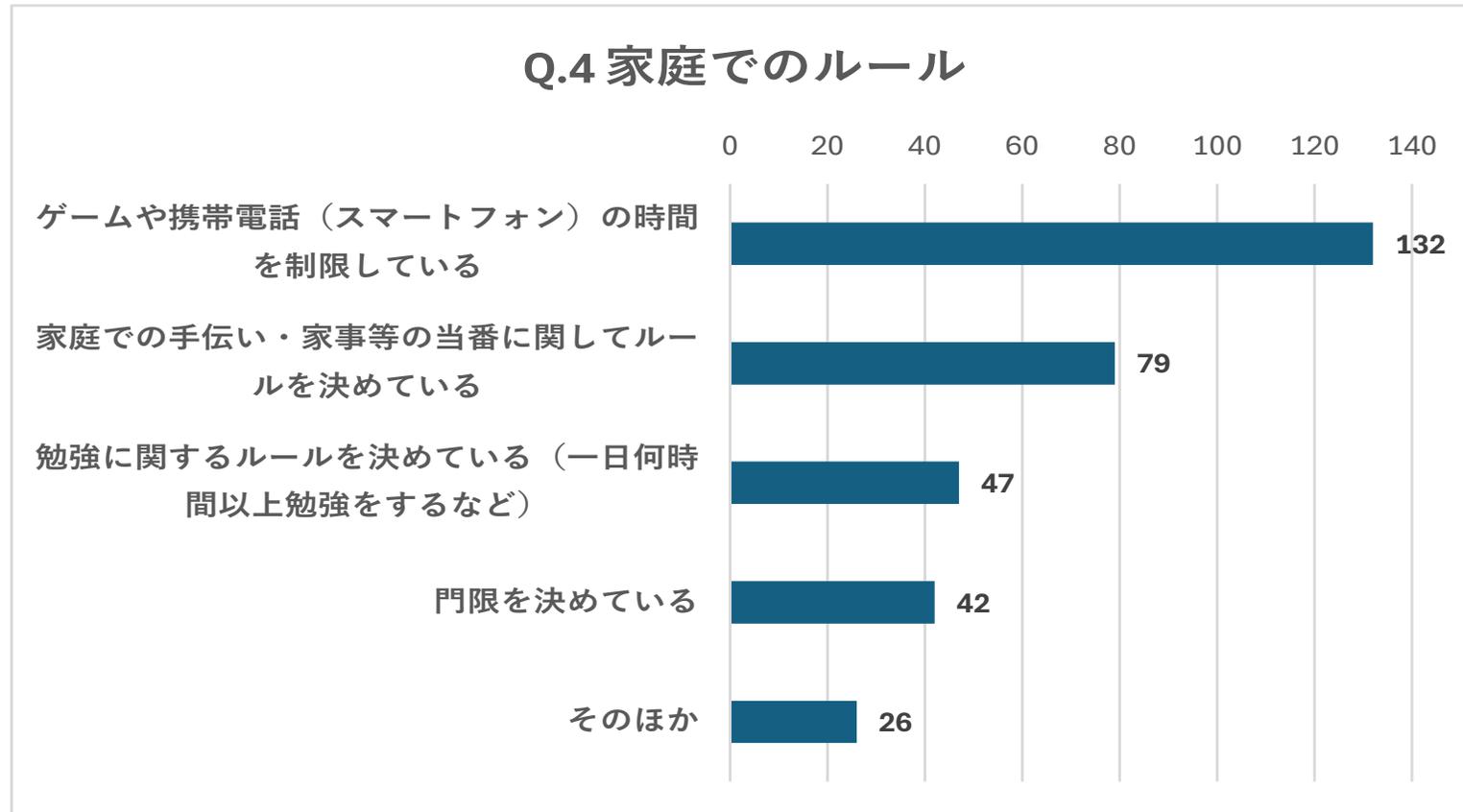
- とてもあてはまる
- どちらかといえばあてはまる
- あまりあてはまらない
- あてはまらない
- 無回答

V：分析の結果：アンケートの結果

【家庭でのルール】

I：中学生の子どもに対する家庭でのルールとしては、「ゲームや携帯電話の時間を制限している」が多く、勉強や門限に関するルールは少ない。手伝い、ルールについてはその中間。

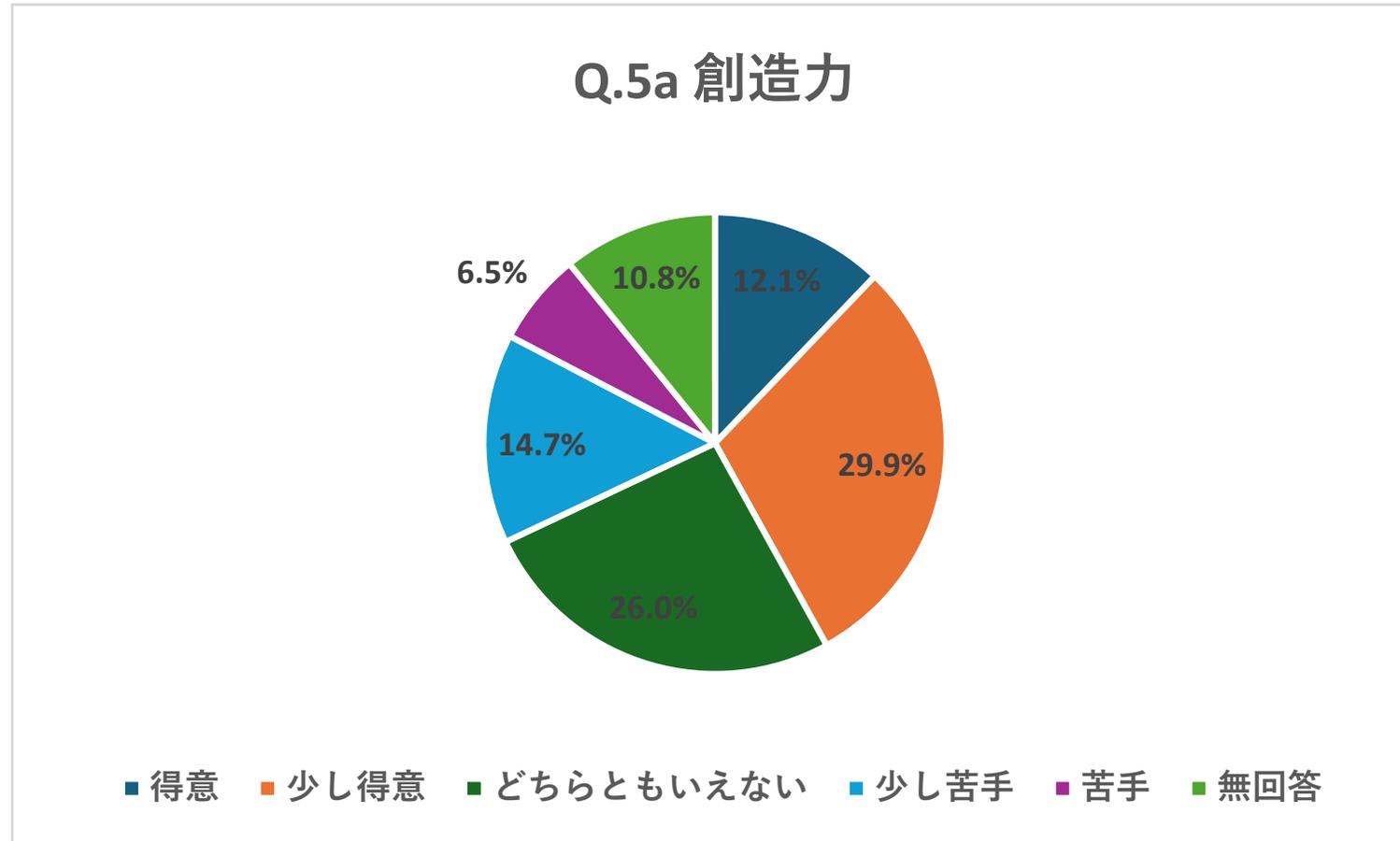
→ゲームや携帯電話の時間を制限している132件、家庭での手伝い・家事の当番のルールは79件、勉強のルールは47件、門限は42件。



V：分析の結果：アンケートの結果

【子どもの多様な学力：得意・不得意】

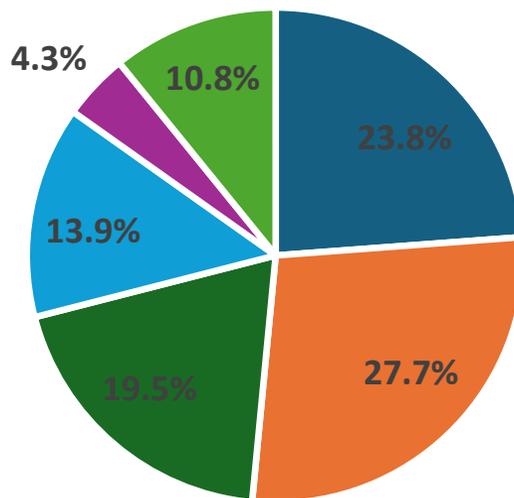
I：中学生の子どもの創造力については、合計42%が、得意・少し得意と認識。



V：分析の結果：アンケートの結果

2：中学生の子どもの想像力については、合計51.5%が、得意・少し得意と認識。

Q.5b 想像力

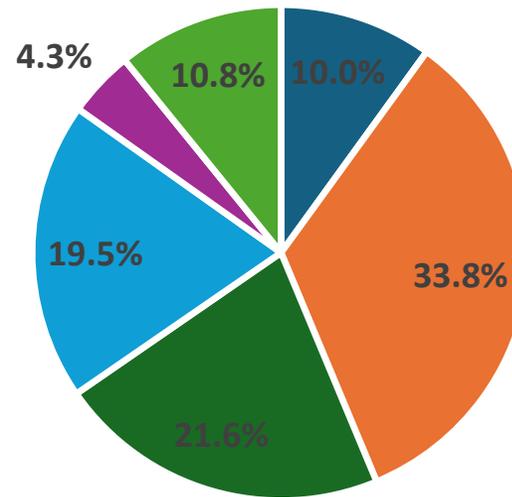


■ 得意 ■ 少し得意 ■ どちらともいえない ■ 少し苦手 ■ 苦手 ■ 無回答

V：分析の結果：アンケートの結果

3：中学生の子どもの自分の長所を見出す力については、合計43.7%が、得意・少し得意と認識。

Q.5c 自分の長所を見出す力

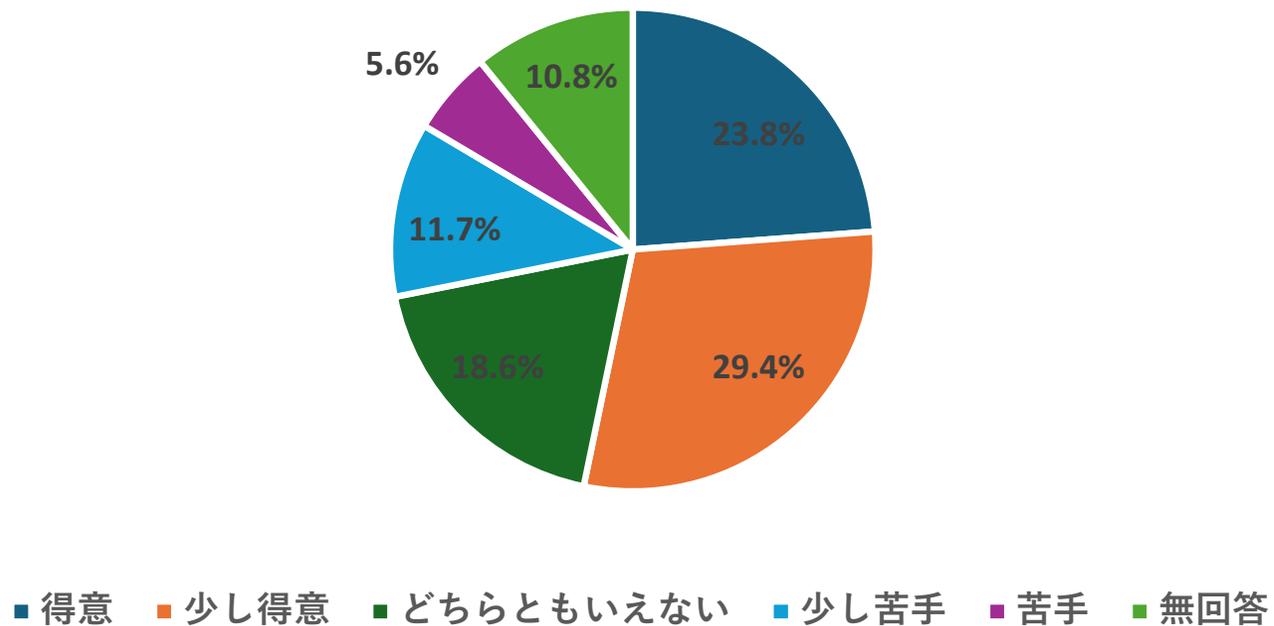


■ 得意 ■ 少し得意 ■ どちらともいえない ■ 少し苦手 ■ 苦手 ■ 無回答

V：分析の結果：アンケートの結果

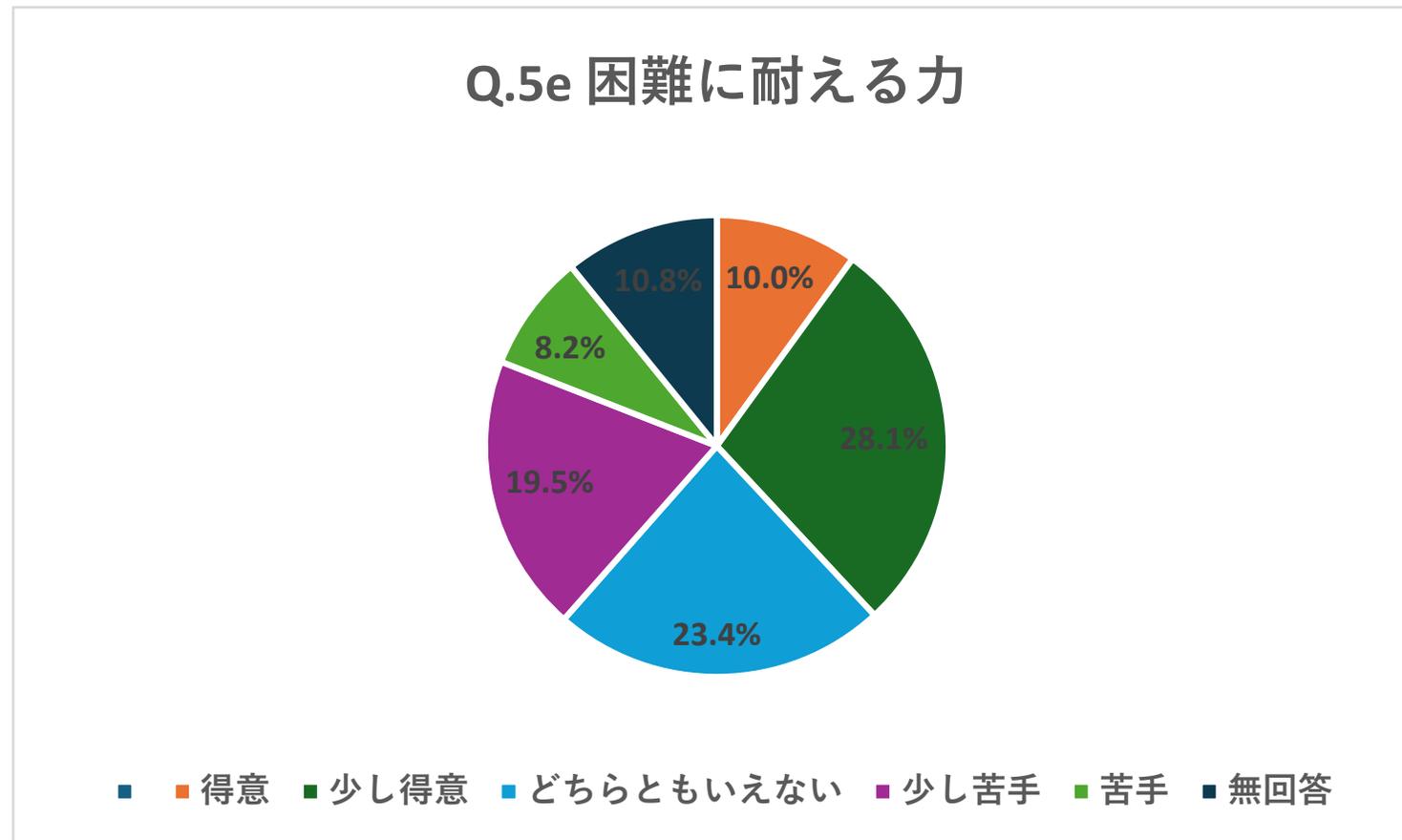
4：中学生の子どもの他者の意見を聞く力については、合計53.2%が、得意・少し得意と認識。

Q.5d 他者の意見を聞く力



V：分析の結果：アンケートの結果

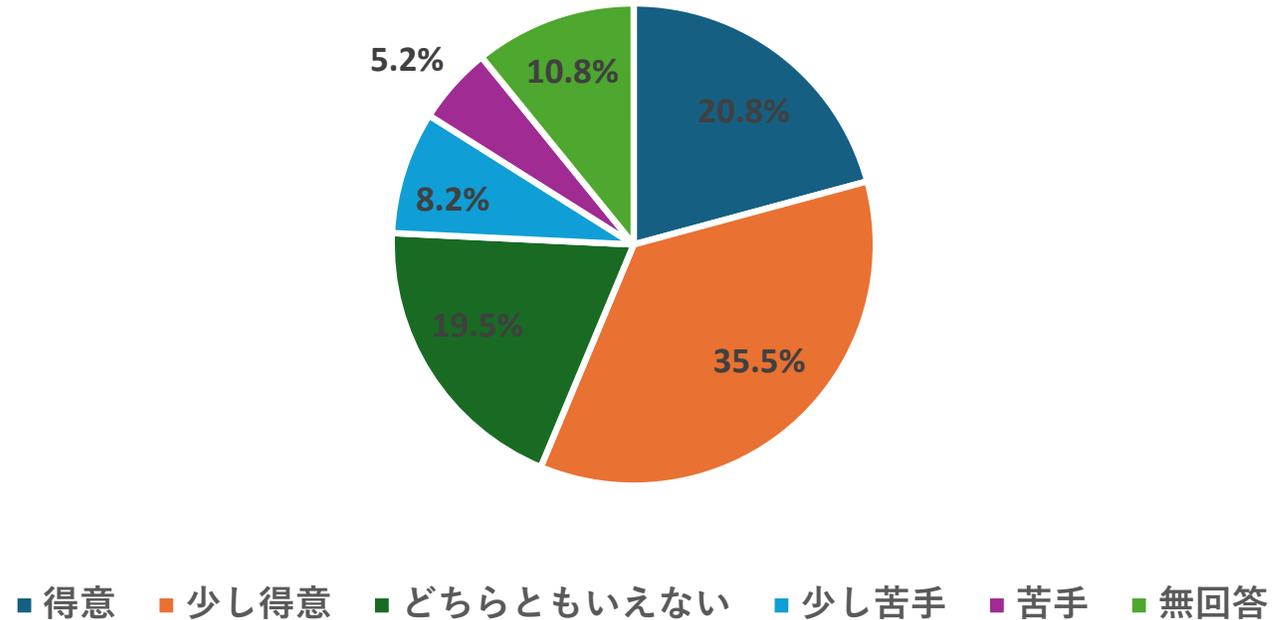
5：中学生の子どもの困難に耐える力については、合計38.1%が、得意・少し得意と認識。



V：分析の結果：アンケートの結果

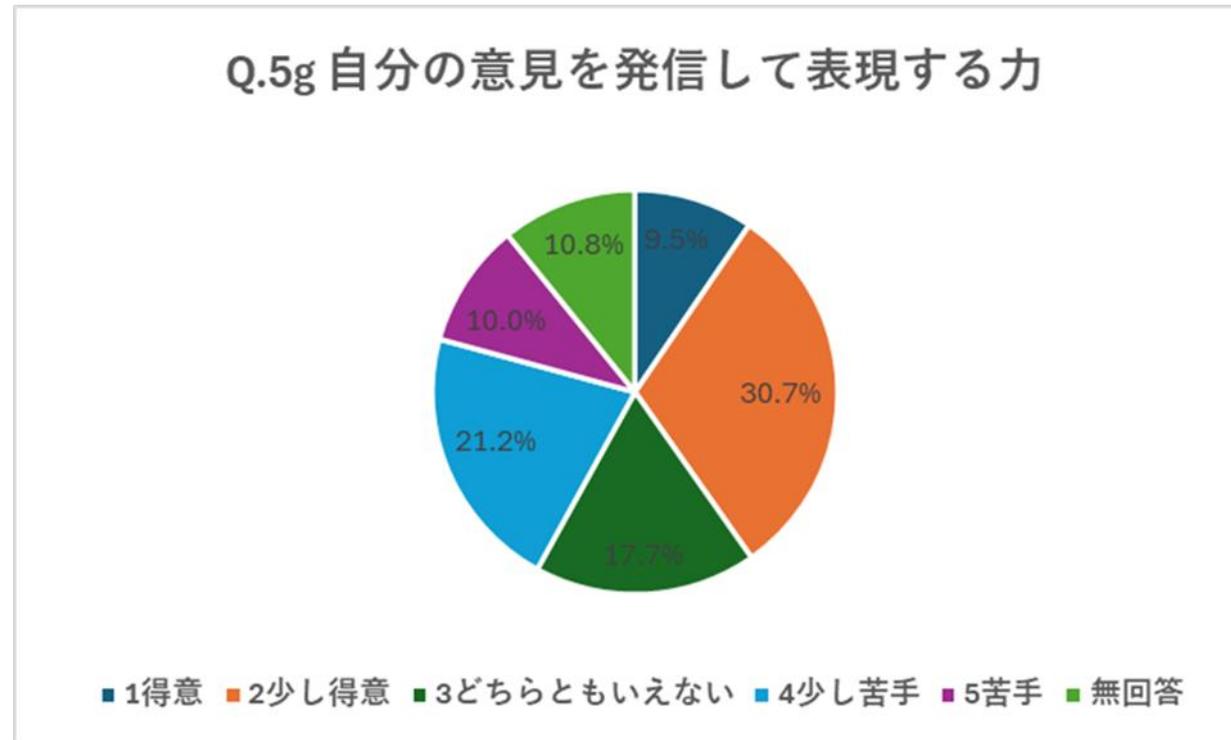
6：中学生の子どもの相手にあわせて感情コントロールする力については、合計56.3%が、得意・少し得意と認識。

Q.5f 相手に合わせた感情コントロール



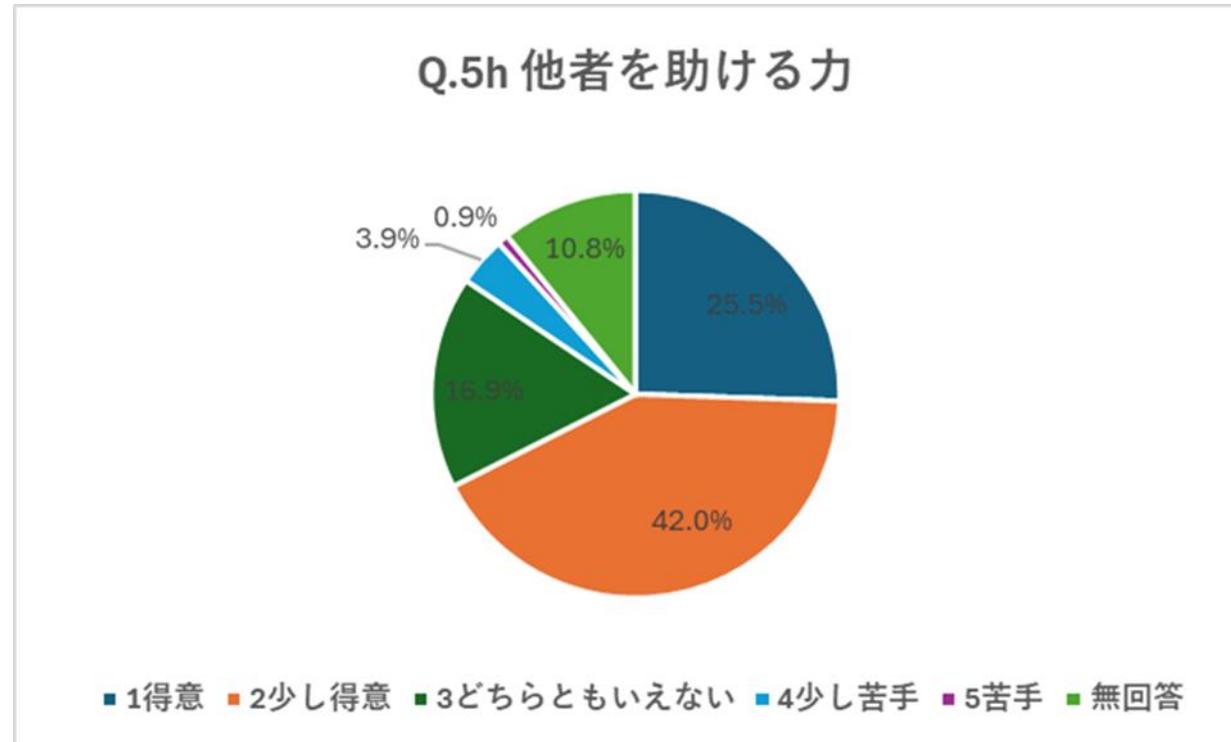
V：分析の結果：アンケートの結果

7：中学生の子どもの自分の意見を発信して表現する力については、合計40.3%が、得意・少し得意と認識。



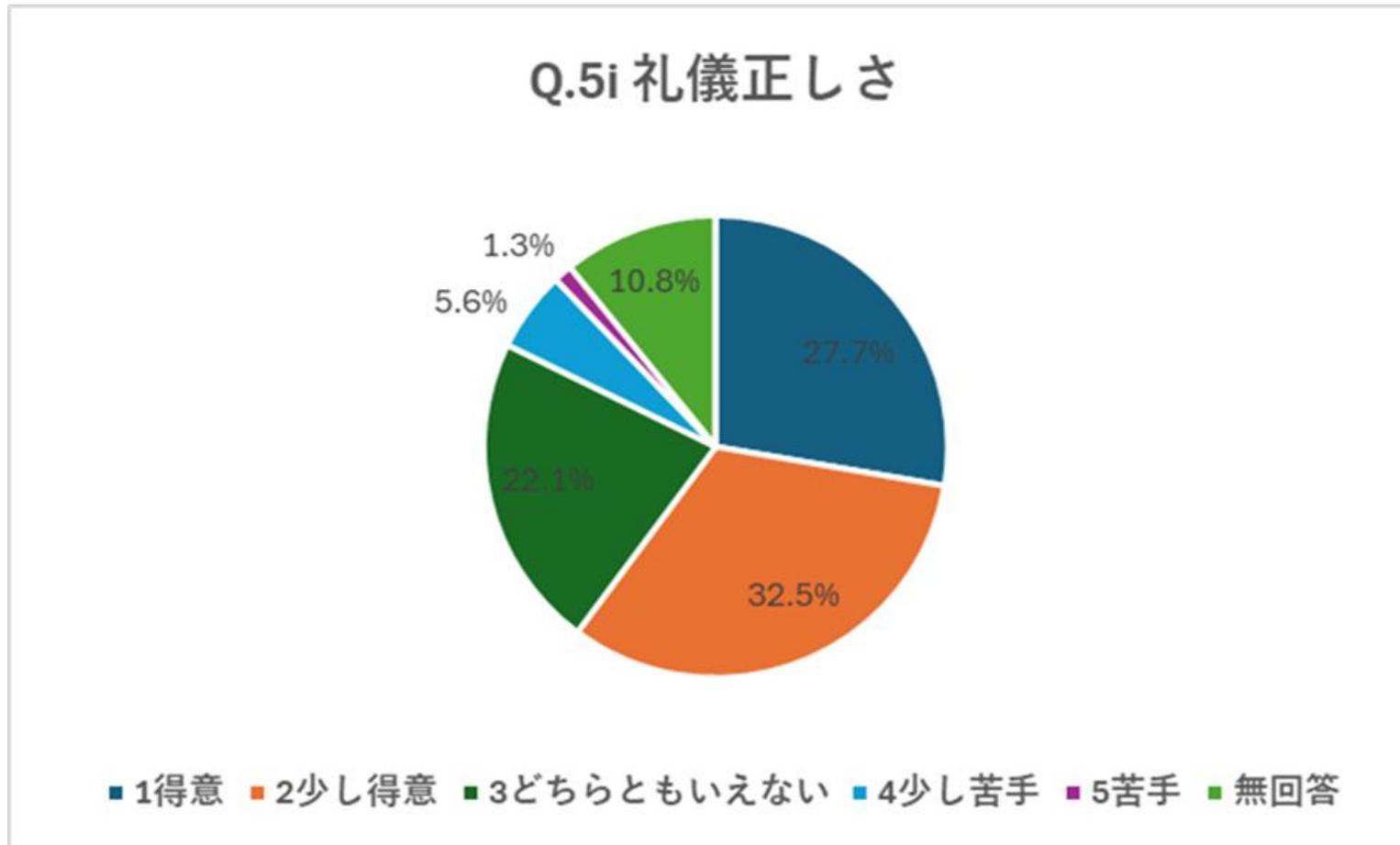
V：分析の結果：アンケートの結果

8：中学生の子どもの他者を助ける力については、合計67.5%が、得意・少し得意と認識。



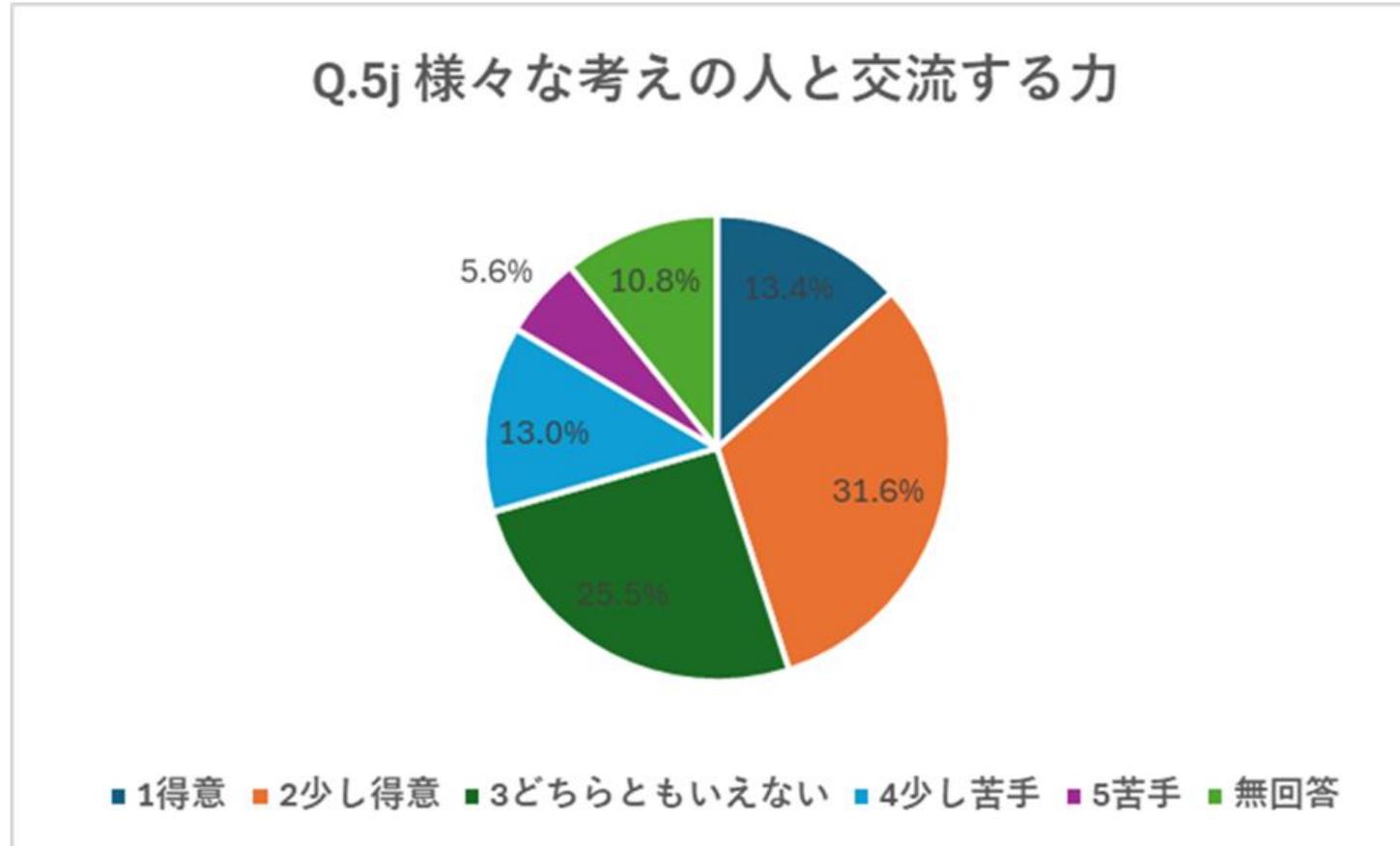
V：分析の結果：アンケートの結果

9：中学生の子どもの礼儀正しさについては、合計60.2%が、得意・少し得意と認識。



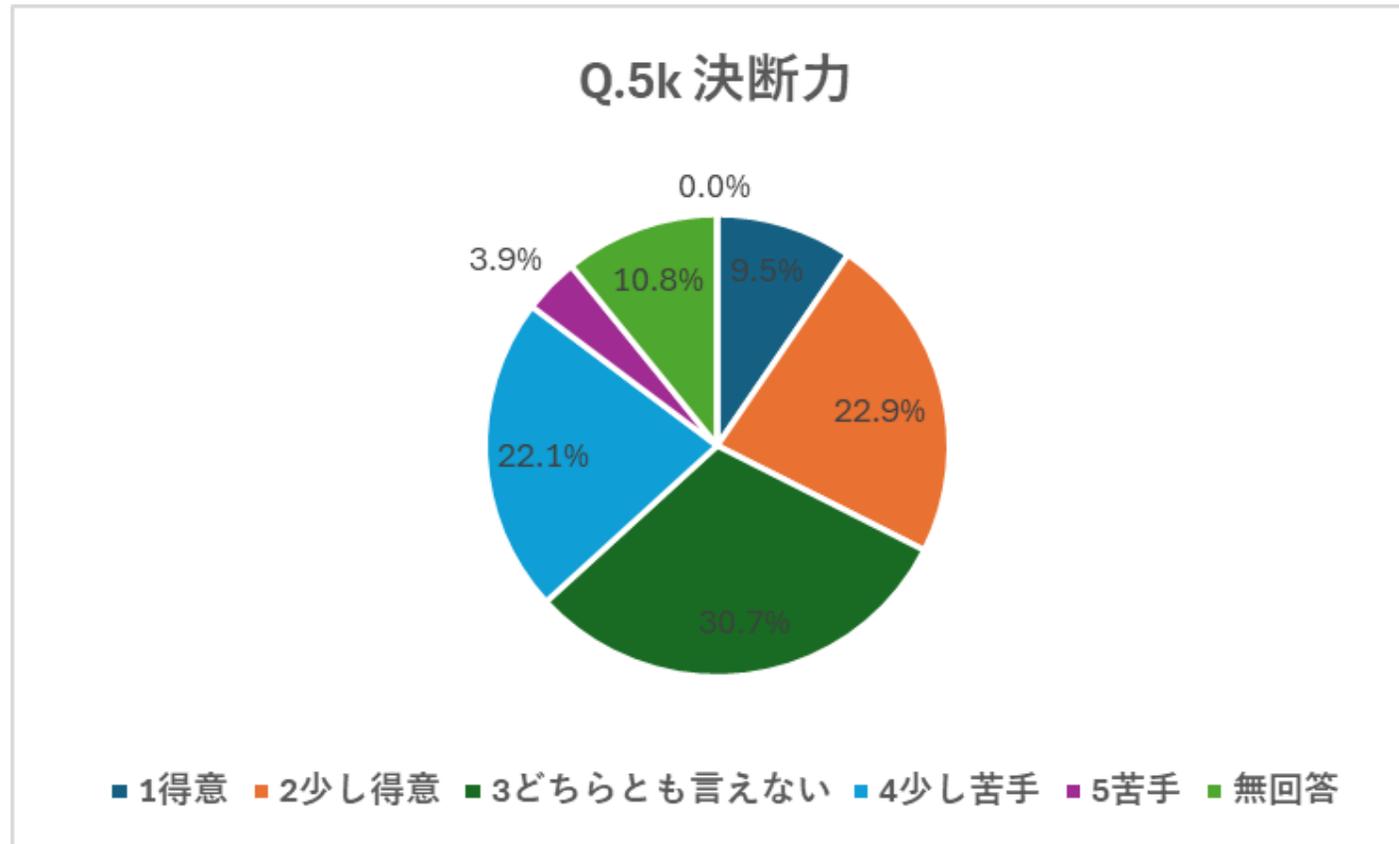
V：分析の結果：アンケートの結果

10：中学生の子どもの様々な考えの人と交流する力については、合計45%が、得意・少し得意と認識。



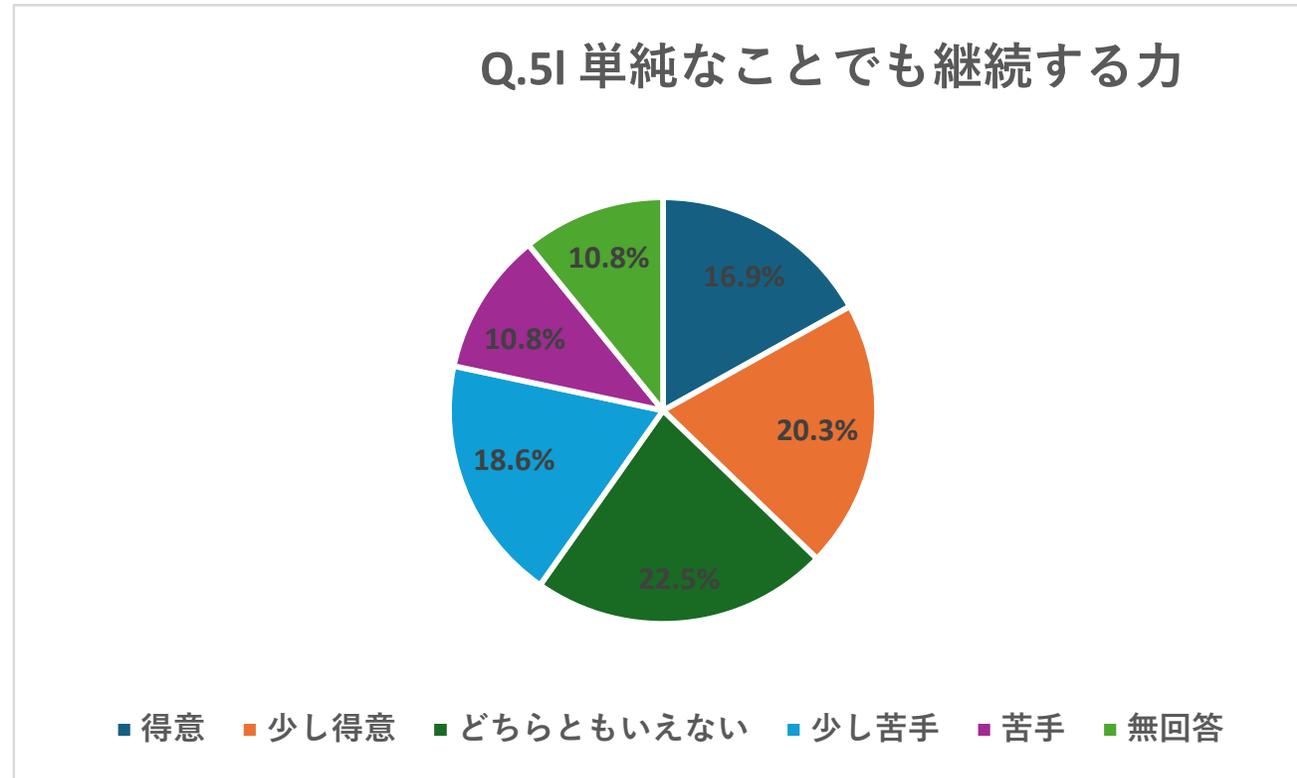
V:分析の結果:アンケートの結果

11:中学生の子どもの決断力については、合計32.5%が、得意・少し得意と認識。



V：分析の結果：アンケートの結果

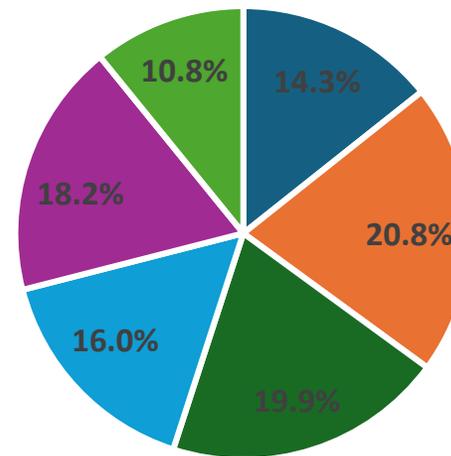
12：中学生の子どもの単純なことでも継続する力については、合計37.2%が、得意・少し得意と認識。



V：分析の結果：アンケートの結果

13：中学生の子どもの基礎学力（筆記試験で測定される学力）については、合計35.1%が、得意・少し得意と認識。

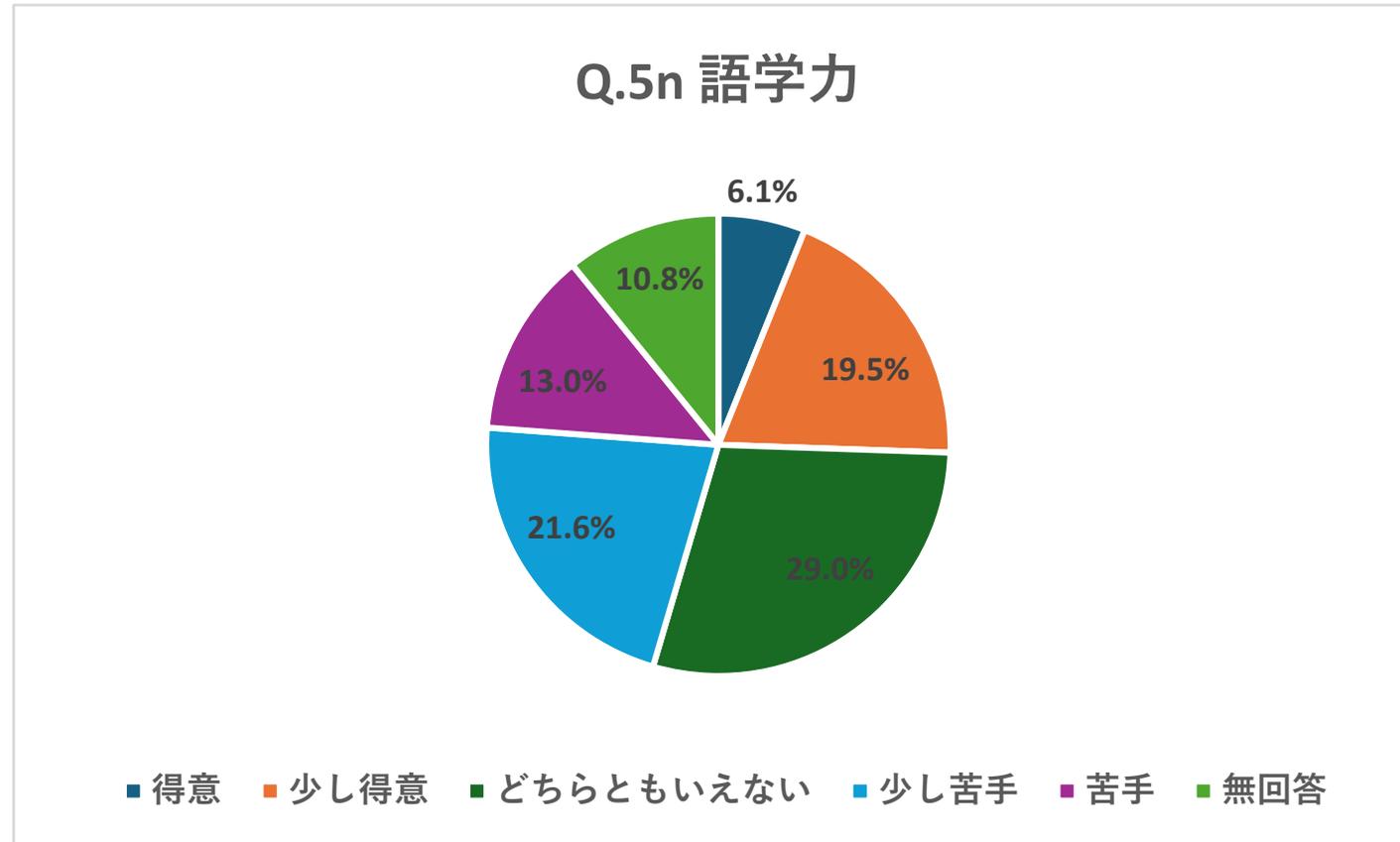
Q.5m 基礎学力（筆記試験で推定される学力）



■ 得意 ■ 少し得意 ■ どちらともいえない ■ 少し苦手 ■ 苦手 ■ 無回答

V:分析の結果:アンケートの結果

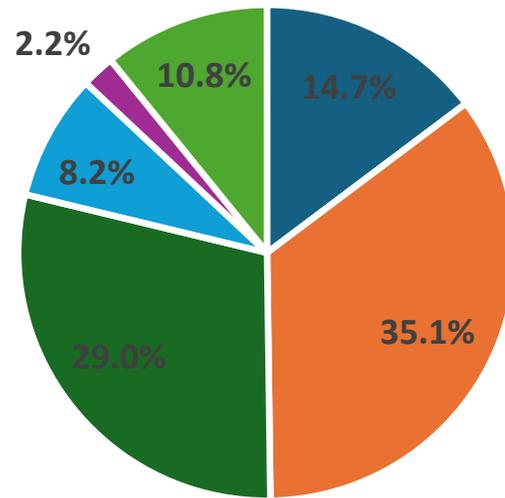
14:中学生の子どもの語学力については、合計25.5%が、得意・少し得意と認識。



V:分析の結果:アンケートの結果

I5:中学生のIT機器を活用する力については、合計49.8%が、得意・少し得意と認識。

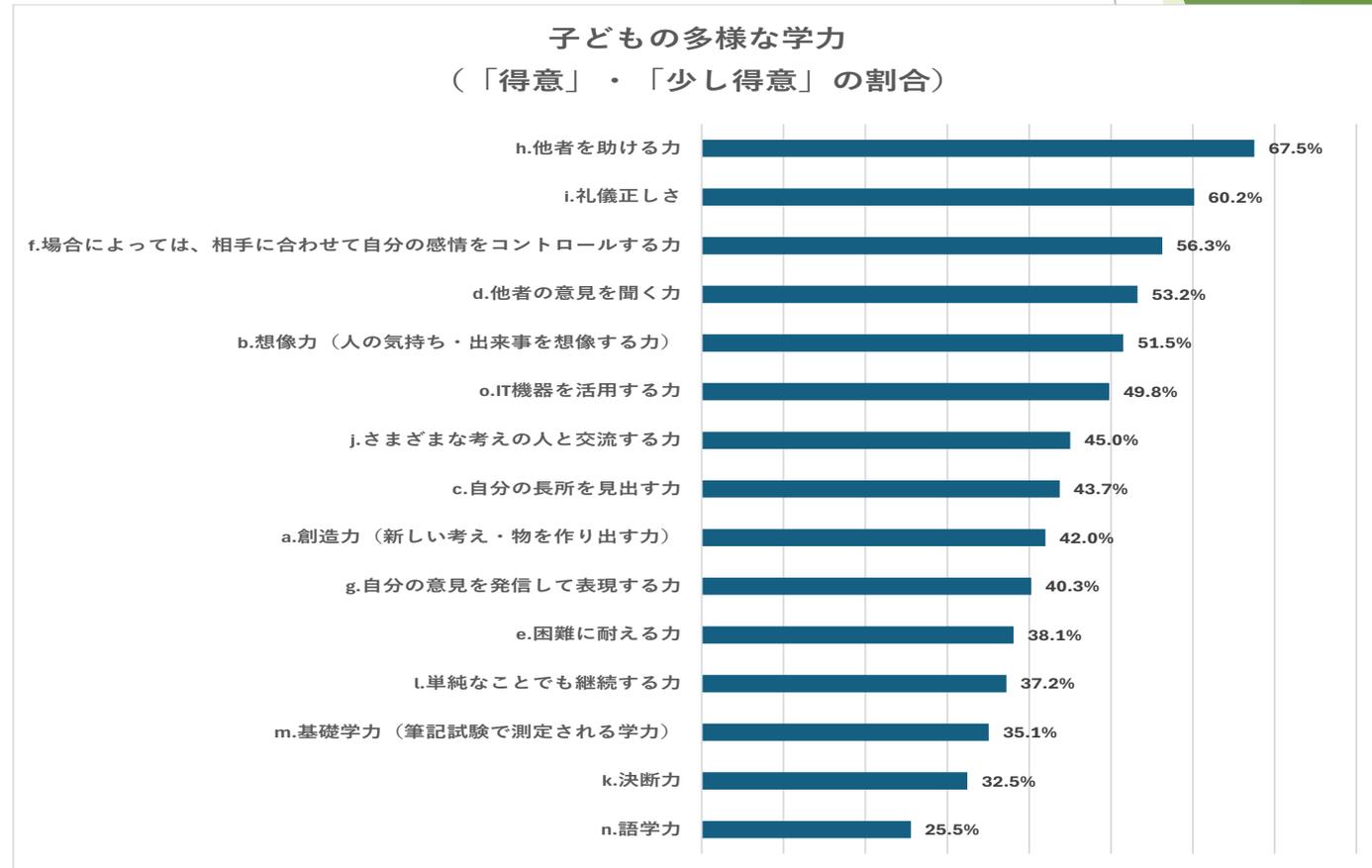
Q.5o IT機器を活用する力



■ 得意 ■ 少し得意 ■ どちらともいえない ■ 少し苦手 ■ 苦手 ■ 無回答

V:分析の結果:アンケートの結果

・子どもの多様な学力について「得意」「少し得意」と答えた割合は「他者を助ける力」が最も高く(67.5%)、礼儀正しさ(60.2%)や相手に合わせた感情コントロール(56.3%)がそれに次ぐ。
⇔認知的な学力(単純なことの継続37.2%、基礎学力35.1%、語学力25.5%)や広義の創造性(創造力42.0%、自分の意見を発信して表現する力40.3%)は低め。



*ここでの選択肢は、松田(2016:110)や尾嶋編著(2001:224)を踏まえ、一部修正。

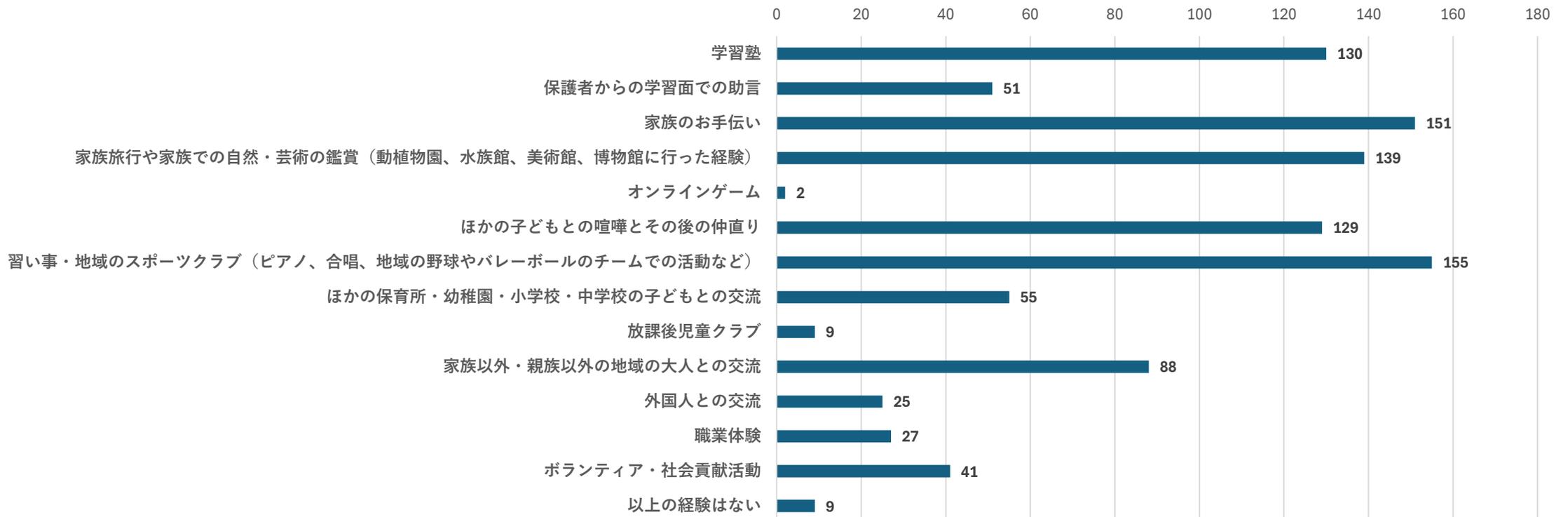
V：分析の結果：アンケートの結果

【保護者の中学校卒業までの経験】

・保護者は、子どもの頃、最も多く経験しているのが「習い事・地域のスポーツクラブ」(155件)、次に多いのが「家族のお手伝い」(151件)。

家族旅行や家族での自然芸術の鑑賞(139件)、学習塾(130件)、ほかの子どもとの喧嘩と仲直りの経験(129件)も多い。

F11. 保護者が中学校卒業までにした経験

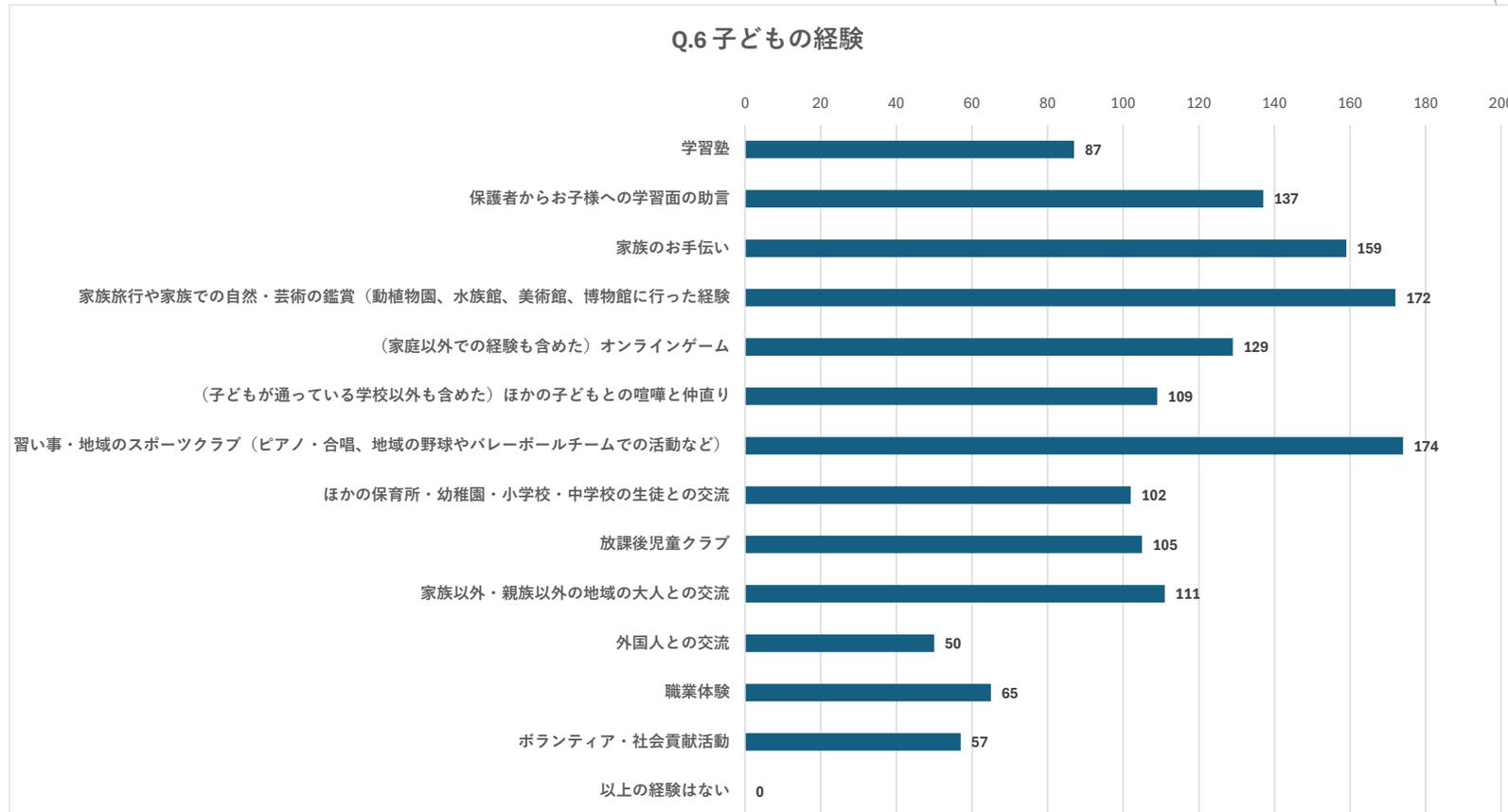


V：分析の結果：アンケートの結果

【中学生の子どもの今までの経験】

・子どもの経験は「習い事・地域のスポーツクラブ」が最多(174件)、次に多いのが「家族旅行や家族での自然・芸術の鑑賞」(172件)。

「家族のお手伝い」(159件)、保護者からお子様への学習面の助言(137件)、オンラインゲーム(129件)も多い。



*ここでの質問項目は、額賀(2020)や今井(2024)およびそれ以外の側面も参考に、大幅に加筆修正。

V：分析の結果：アンケートの結果

【保護者の子どもの頃の経験×子どもの経験】

(以下、 χ^2 検定で10%水準で有意なもののみ掲載。また「無回答」「非該当」は分析対象から除外)

I：保護者が親族以外の地域の大人との交流を子どもの頃に行っている場合、子どもも親族以外の地域の大人との交流を経験している割合が高い傾向。

ここでの経験とは、保護者の場合、中学校卒業までの経験を指し、子どもは現在までの経験を指す。

		子どもの地域の親族以外の大人との交流の経験		
		未選択	はい	合計
保護者の子どもの頃の親族以外の地域の大人との交流の経験	未選択	80	50	130
		61.5%	38.5%	100.0%
	はい	16	61	77
		20.8%	79.2%	100.0%
	合計	96	111	207
		46.4%	53.6%	100.0%

V：分析の結果：アンケートの結果

【保護者の子どもの頃の経験×子どもの経験】

2：保護者が他の子どもとの喧嘩と仲直りの経験を子どもの頃に行っている場合、子どももほかの子どもとの喧嘩と仲直りを経験している割合が高い傾向。

		子どもの他の子どもとの喧嘩と仲直りの経験		
		未選択	はい	合計
保護者の子どもの頃の他の子どもとの喧嘩と仲直りの経験	未選択	63	28	91
		69.2%	30.8%	100.0%
	はい	35	81	116
		30.2%	69.8%	100.0%
	合計	98	109	207
		47.3%	52.7%	100.0%

V：分析の結果：アンケートの結果

【保護者の子どもの頃の経験×子どもの経験】

3：保護者が外国人との交流を子どもの頃に行っている場合、子どもも外国人との交流を経験している割合が高い傾向。

		子どもの外国人との交流の経験		
		未選択	はい	合計
保護者の子ども の頃の外国 人との交流の 経験	未選択	149	37	186
		80.1%	19.9%	100.0%
	はい	8	13	21
		38.1%	61.9%	100.0%
	合計	157	50	207
		75.8%	24.2%	100.0%

V：分析の結果：アンケートの結果

【保護者の子どもの頃の経験×子どもの経験】

4：保護者が他の学校の子どものとの交流（他の保育所・幼稚園や小学校・中学校の子どものとの交流）を子どもの頃に行っている場合、子どもも他の学校の子どものとの交流を行っている傾向。

		子どもの他の学校の子どものとの交流の経験		
		未選択	はい	合計
保護者の子どもの頃の他の学校の子どものとの交流の経験	未選択	94	63	157
		59.9%	40.1%	100.0%
	はい	11	39	50
		22.0%	78.0%	100.0%
	合計	105	102	207
		50.7%	49.3%	100.0%

V：分析の結果：アンケートの結果

【保護者の子どもの頃の経験×子どもの経験】

5：保護者がボランティアを子どもの頃に経験している場合、子どもボランティアをした経験がある傾向。

		子どものボランティアの経験		
		未選択	はい	合計
保護者の子どもの頃のボランティアの経験	未選択	135	38	173
		78.0%	22.0%	100.0%
	はい	15	19	34
		44.1%	55.9%	100.0%
	合計	150	57	207
		72.5%	27.5%	100.0%

V：分析の結果：アンケートの結果

【保護者の子どもの頃の経験×子どもの経験】

6：そのほか、「学習塾」、「子どもへの学習面での助言」、「家族の手伝い」、「家族旅行や家族での自然・芸術の鑑賞（動植物園、水族館、美術館、博物館に行った経験）」、「習い事・地域のスポーツクラブ（ピアノ・合唱・地域の野球やバレーボールのチームでの活動など）」も、保護者の子どもの頃の経験と子どもの経験は関連。

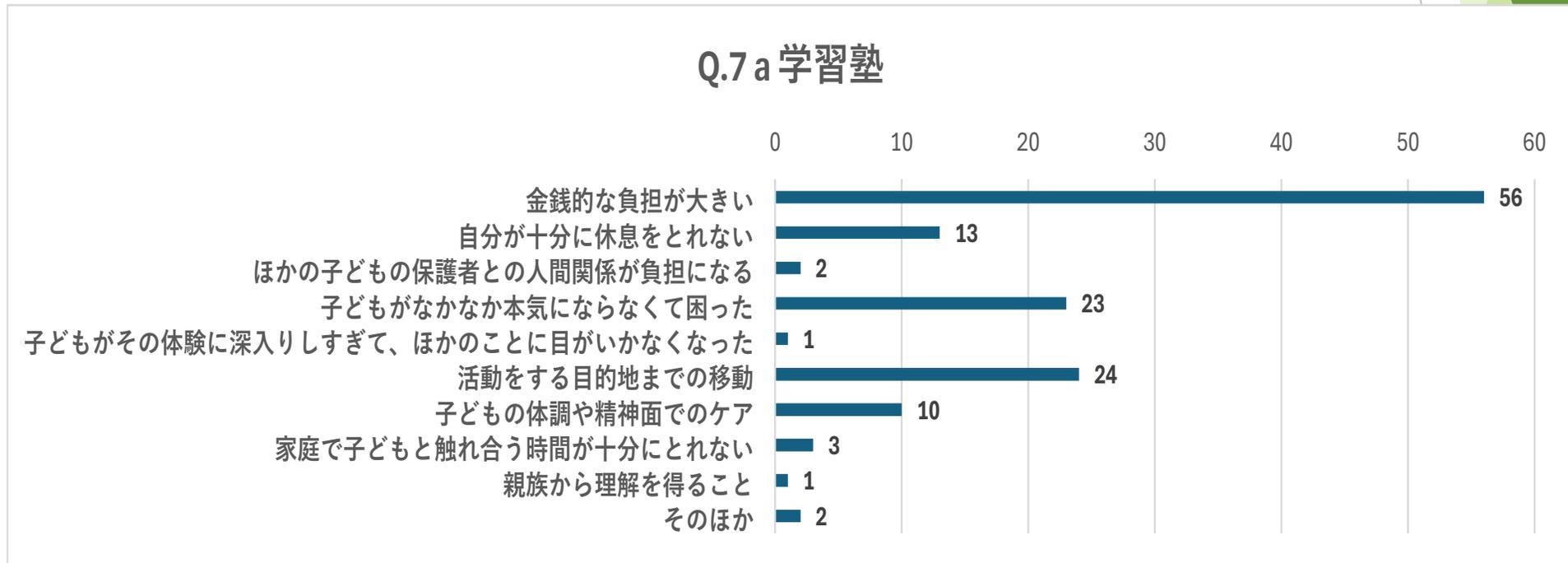
*オンラインゲームも、保護者の経験と子どもの経験とは関連しているが、保護者世代の中学校までの経験者が極めて少ない（10件未満）。

V：分析の結果：アンケートの結果

【子どもに経験させるにあたっての負担】

I：子どもの学習塾の経験に際しては、金銭的な負担が最も多く、活動をする目的地までの移動や子どもが本気にならないことが次に多い。

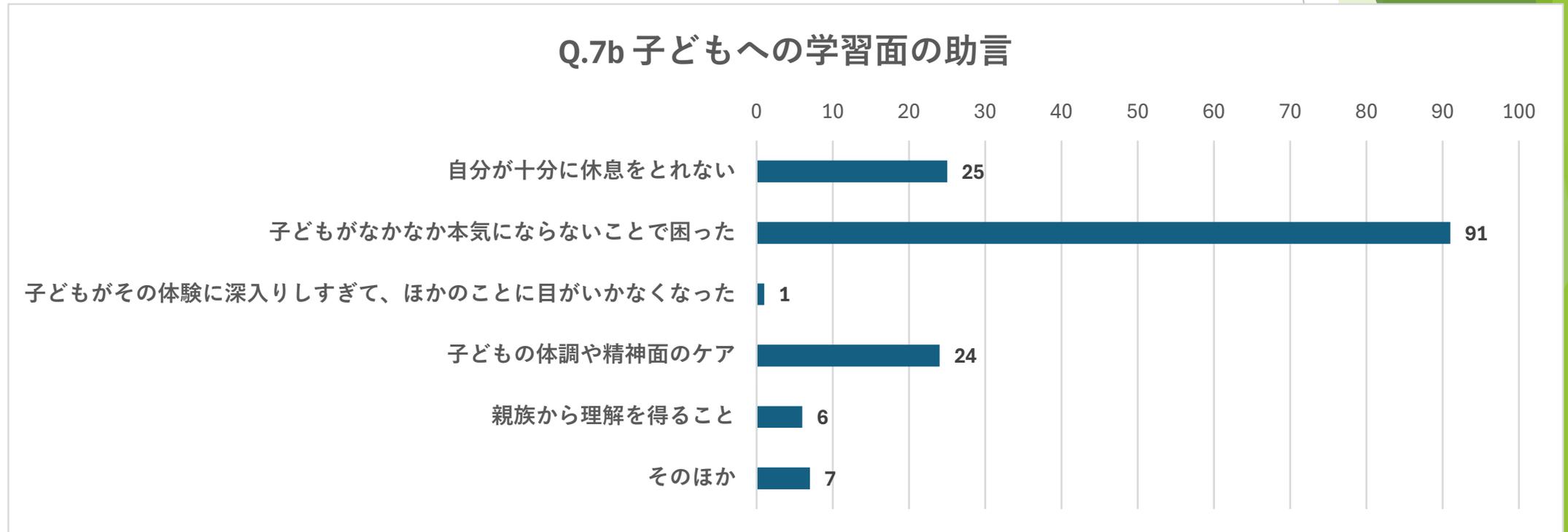
・「金銭的な負担が大きい」56件、「活動をする目的地までの移動」24件、「子どもがなかなか本気にならなくて困った」23件。



V：分析の結果：アンケートの結果

2：子どもに対する学習の助言については、子どもがなかなか本気にならないが最も多く、自分が十分に休息をとれないことや子どもの体調や精神面のケアがそれに次ぐ。

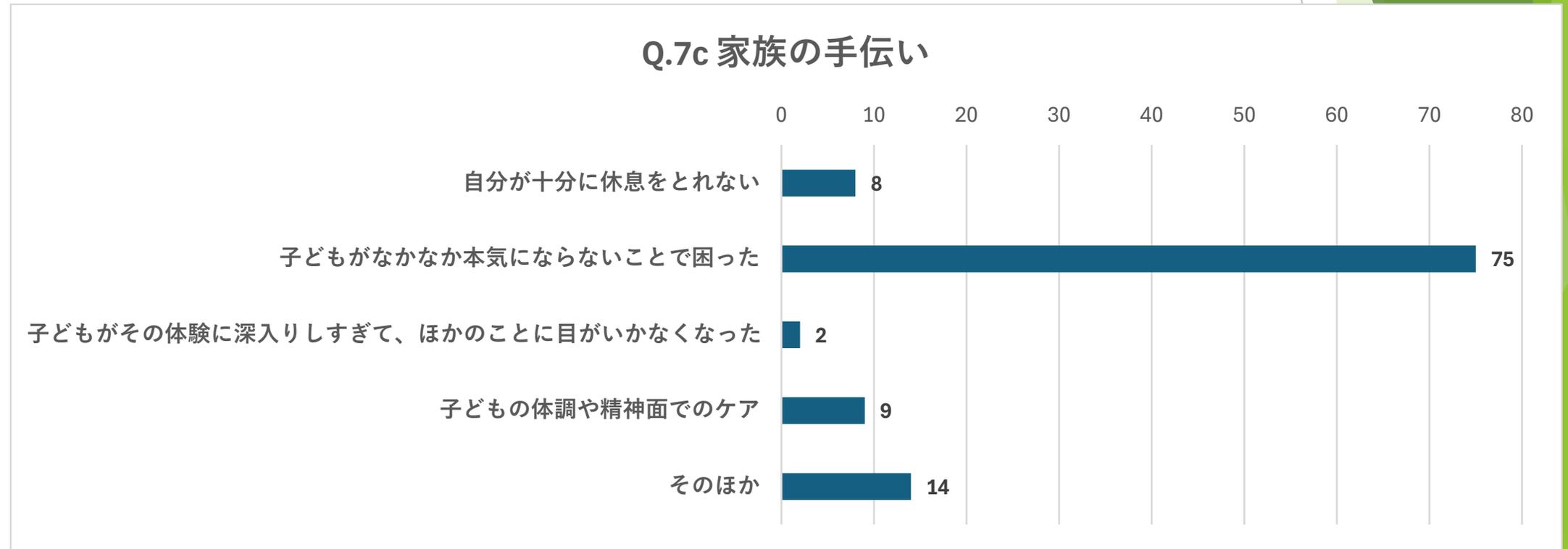
・「子どもがなかなか本気にならないことで困った」91件、「自分が十分に休息をとれない」25件、「子どもの体調や精神面のケア」24件。



V:分析の結果:アンケートの結果

3:家族の手伝いについては、子どもがなかなか本気にならないが突出して多い。

・「子どもがなかなか本気にならないことで困った」75件。それ以外の項目は10件未満。

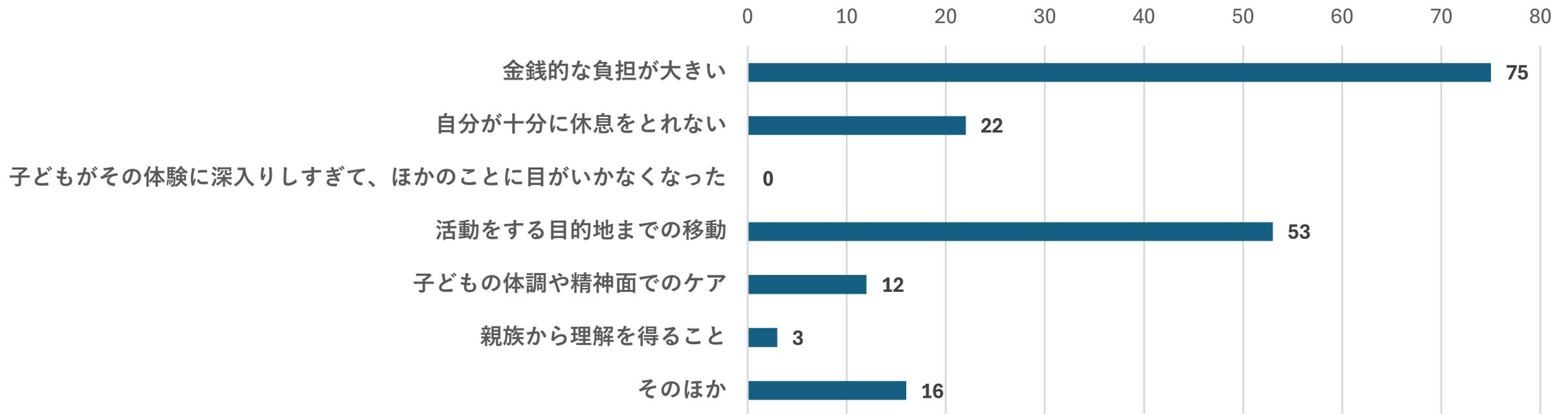


V:分析の結果:アンケートの結果

4:家庭での旅行や自然・芸術鑑賞は、「金銭的な負担」、「活動をする目的地までの移動」の負担が大きい。

- ・「金銭的な負担が大きい」75件、「活動をする目的地までの移動」53件。

Q7.d 家族旅行や自然・芸術鑑賞

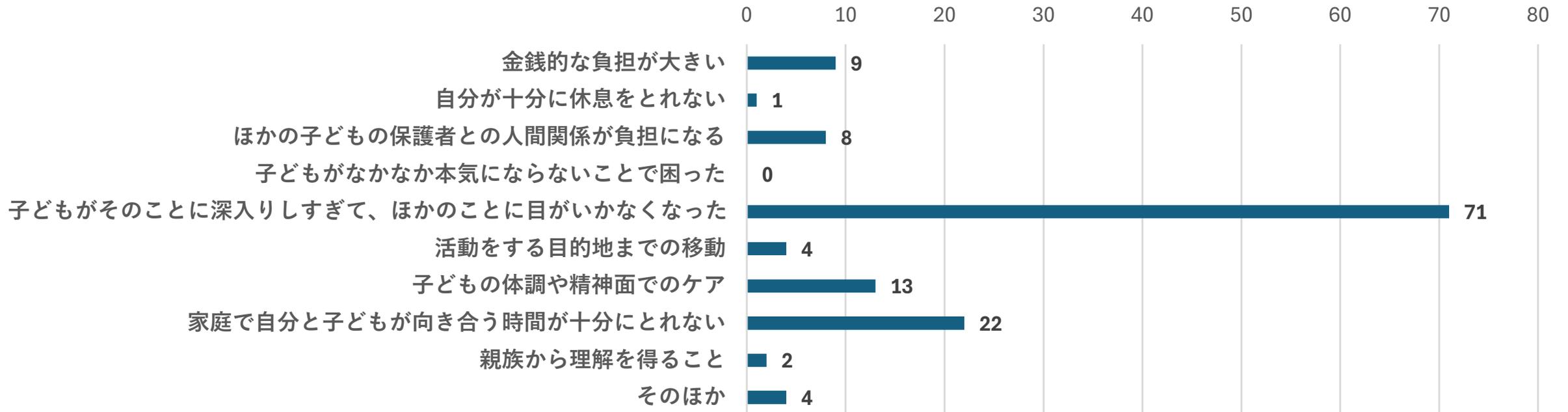


V：分析の結果：アンケートの結果

5：オンラインゲームについては、子どもがそのことに深入りしすぎて、ほかのことに目がいかなくなかったが突出して多い。

・「子どもがそのことに深入りしすぎて、ほかのことに目がいかなくなった」71件、「家庭で自分と子どもが向き合う時間が十分にとれない」22件。

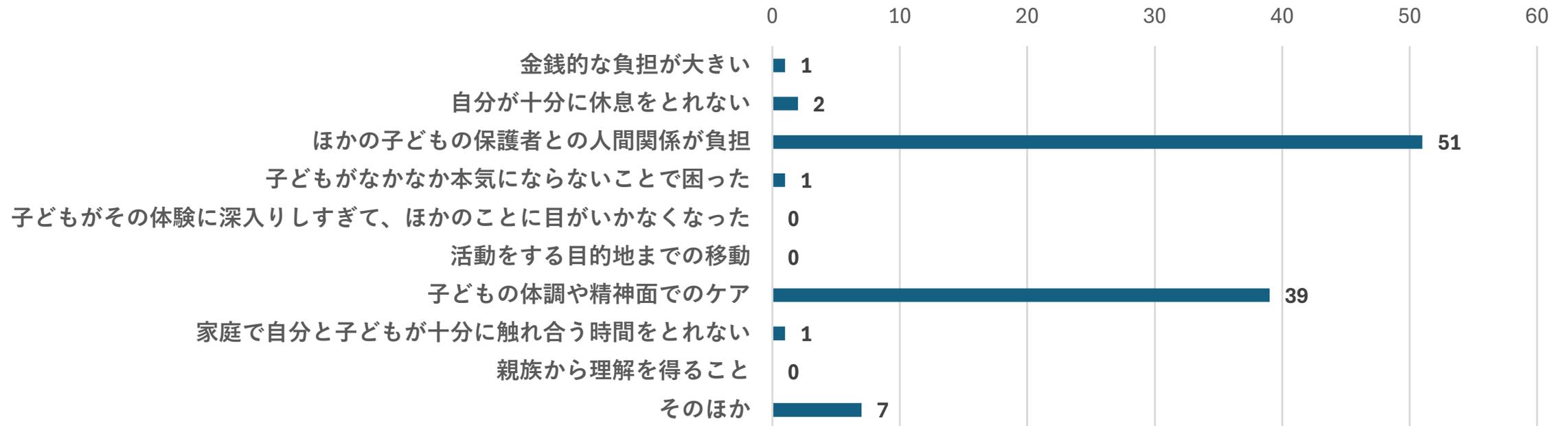
Q7.e オンラインゲーム



V:分析の結果:アンケートの結果

6:ほかの子どもとの喧嘩と仲直りについては、「ほかの子どもとの保護者との人間関係が負担」(51件)が最多で、「子どもの体調や精神面でのケア」(39件)が次に多い。

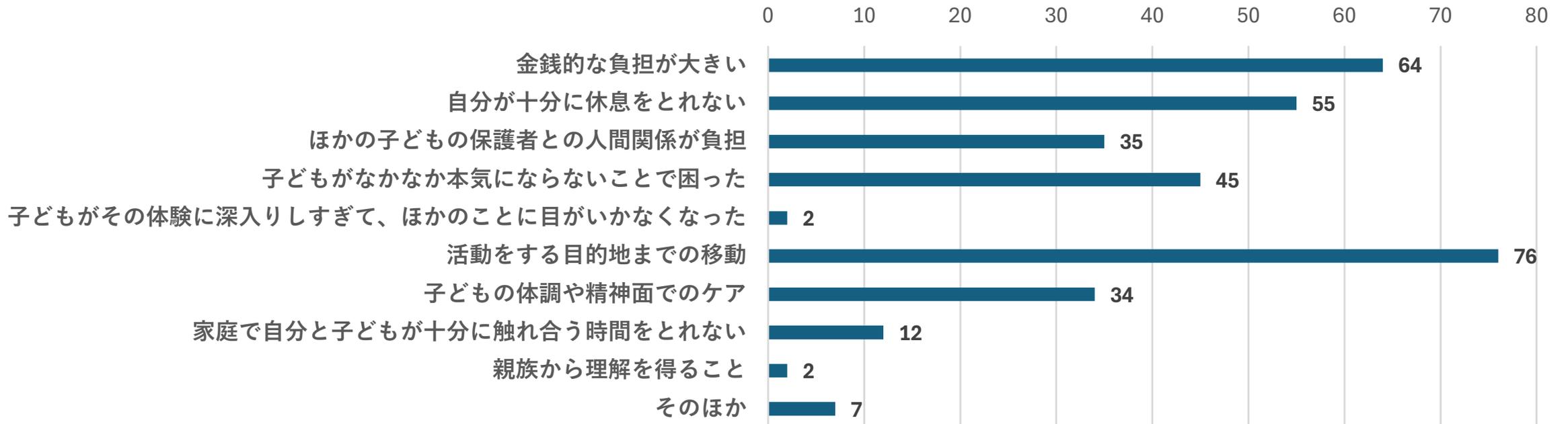
Q.7f ほかの子どもとの喧嘩と仲直り



V:分析の結果:アンケートの結果

7:習い事・地域のスポーツクラブについては、「活動をする目的地までの移動」(76件)が最多で、「金銭的な負担が大きい」(64件)が次に多い。自分が十分に休息をとれないも55件。

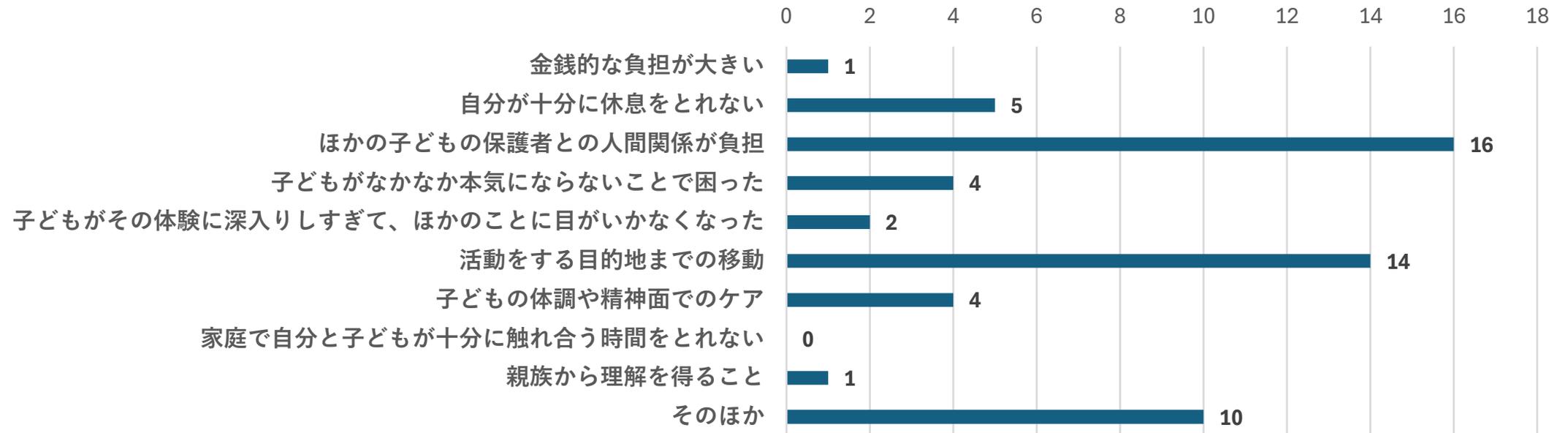
Q.7g 習い事・地域のスポーツクラブ



V:分析の結果:アンケートの結果

8:ほかの保育所・幼稚園・小学校・中学校の子どもとの交流については、「ほかの子どもの保護者との人間関係が負担」(16件)、「活動をする目的地までの移動」(14件)が少し多い。

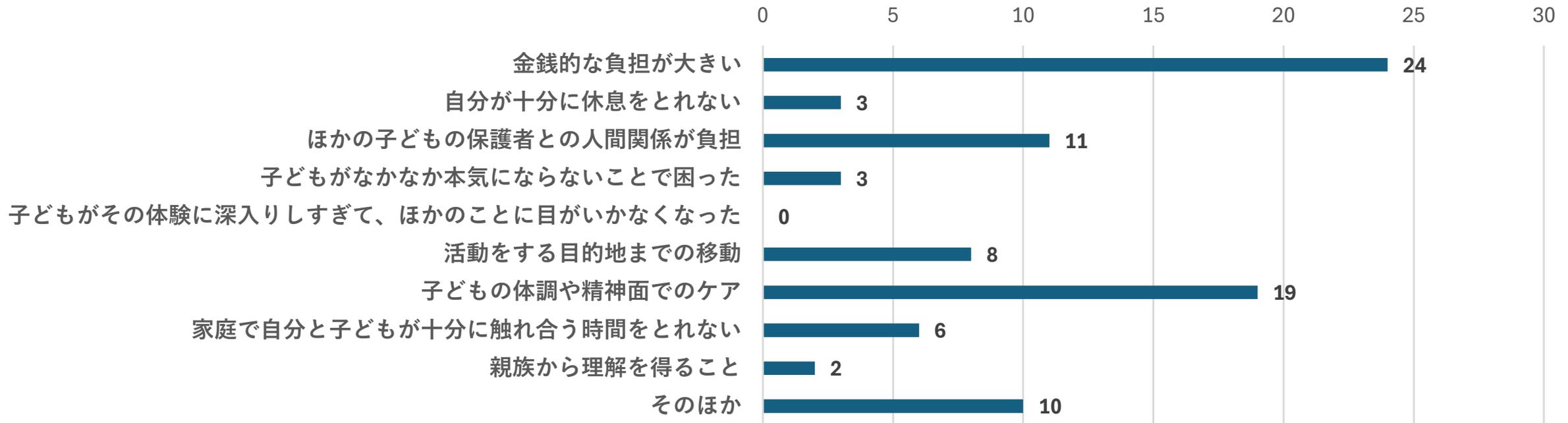
Q.7h ほかの学校・保育所の子どもとの交流



V:分析の結果:アンケートの結果

9:放課後児童クラブについては、「金銭的な負担」(24件)が最多で、「子どもの体調や精神面でのケア」(19件)が次に多い。

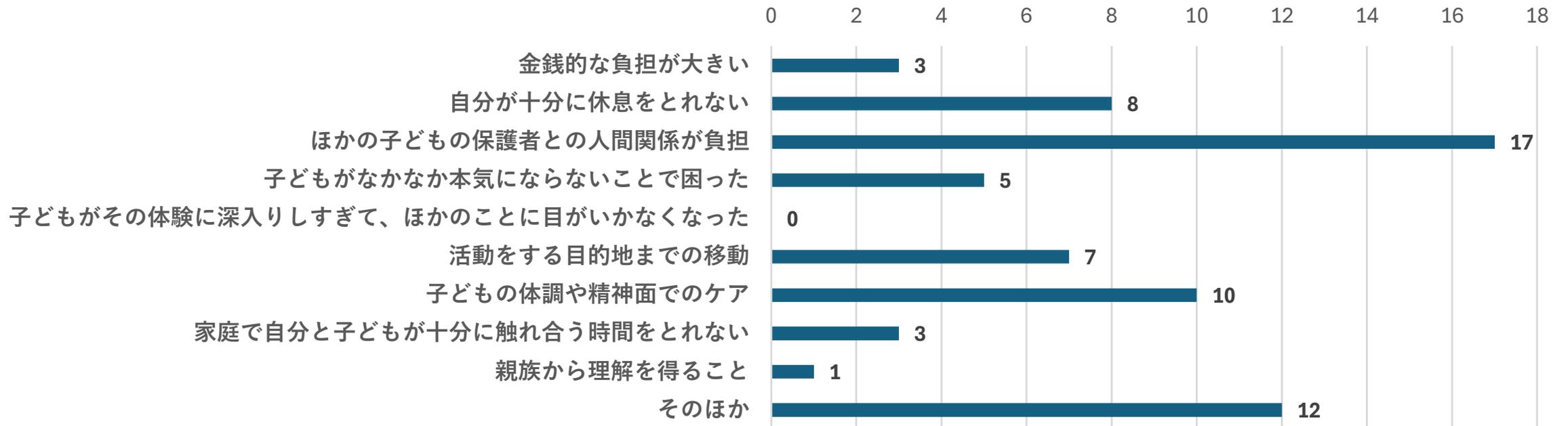
Q.7i 放課後児童クラブ



V:分析の結果:アンケートの結果

10:家族・親族以外の地域の大人との交流については、「ほかの子どもの保護者との人間関係が負担」(17件)が最多で、「子どもの体調や精神面でのケア」(10件)が少し多め。

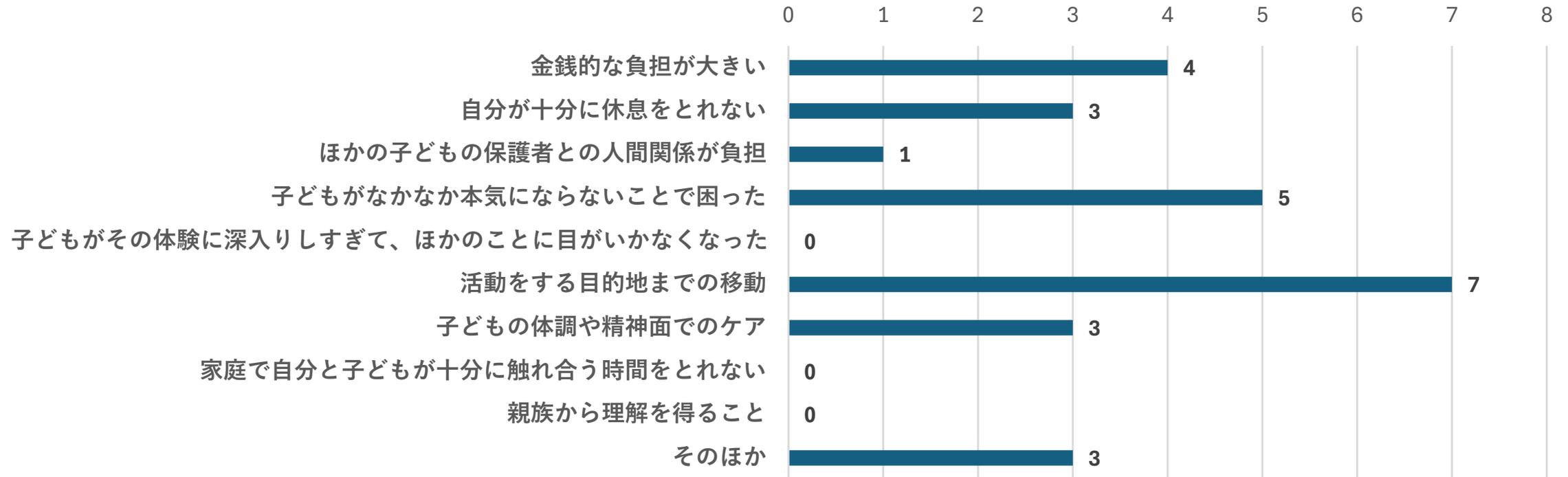
Q.7j 家族・親族以外の地域の大人との交流



V:分析の結果:アンケートの結果

II:外国人との交流に際しての負担については、いずれの選択肢も少なめ。

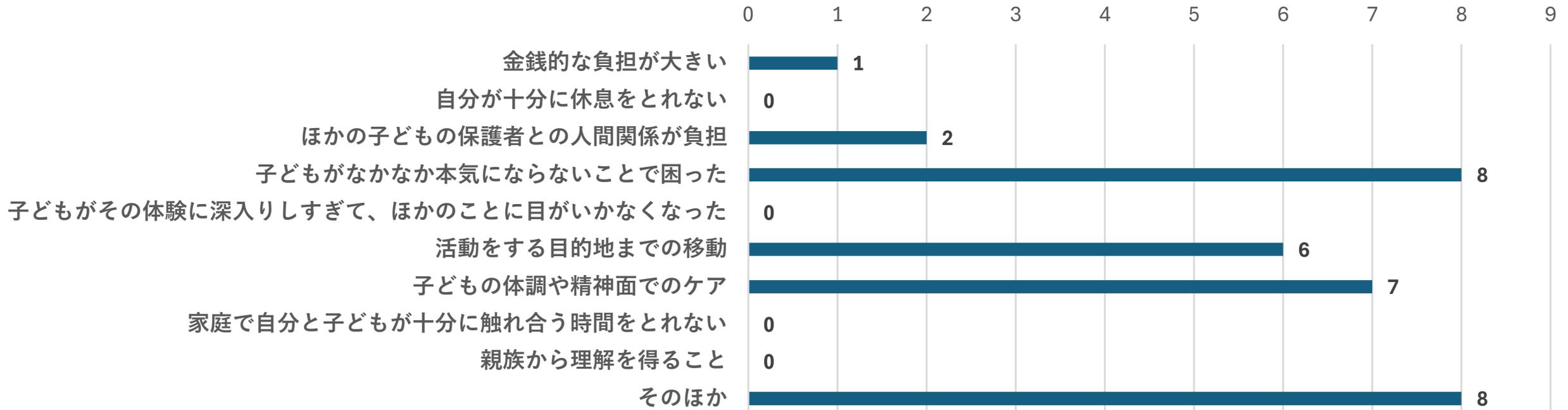
Q.7k 外国人との交流



V:分析の結果:アンケートの結果

12:職業体験に際しての負担については、いずれの選択肢も少なめ。

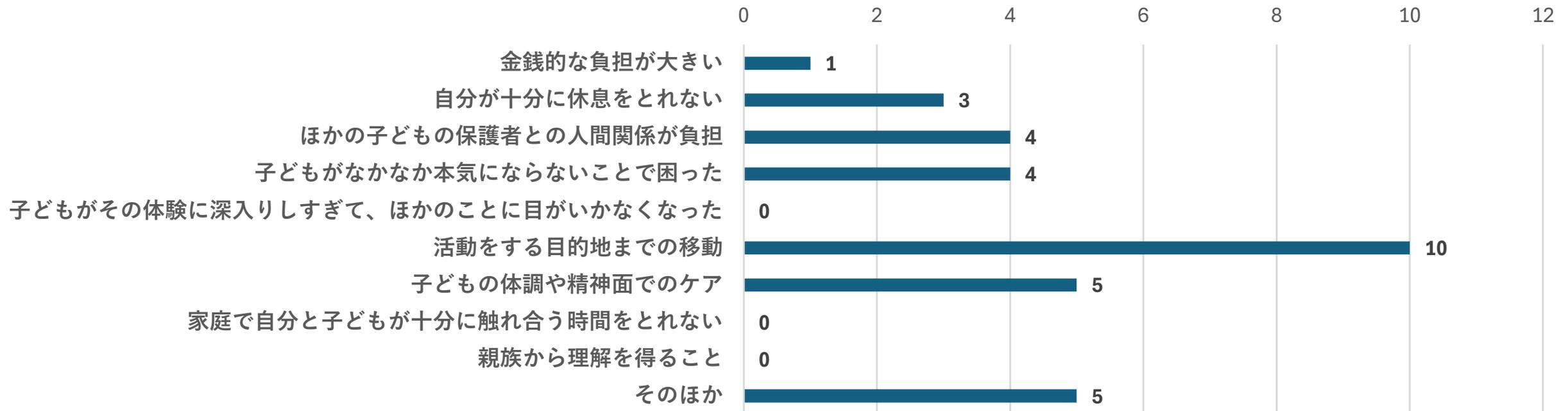
Q.71 職業体験



V:分析の結果:アンケートの結果

13:ボランティア・社会貢献活動への参加に際しての負担については、「活動をする目的地までの移動」が10件と少しある。

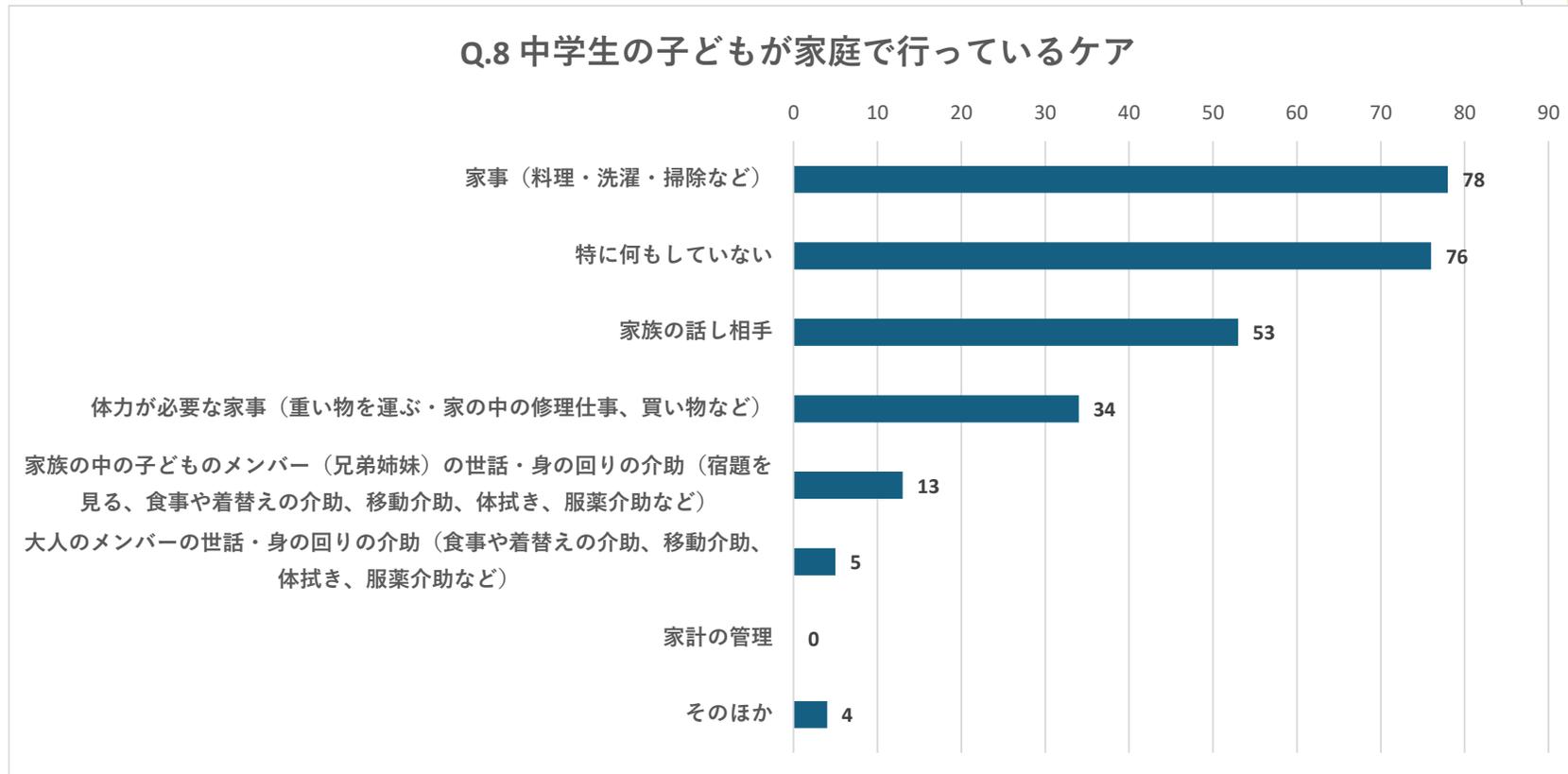
Q.7m ボランティア・社会貢献活動



V：分析の結果：アンケートの結果

【中学生が行っている家族のケア】

- ・家事（料理・洗濯・掃除など）が最多（78件）、家族の話し相手も53件。
- ⇔特に何もしていないも一定割合存在（76件）。



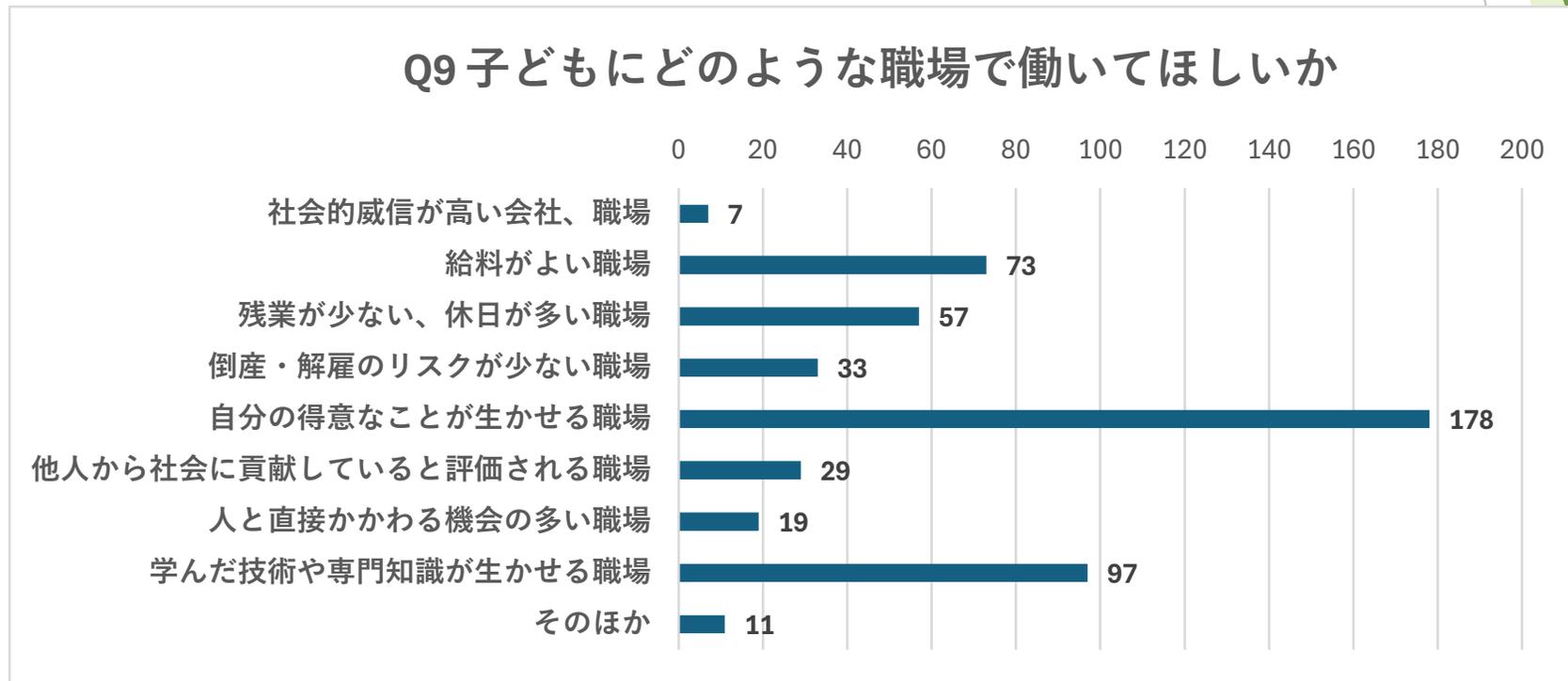
2/14/2025

*ここでの選択肢は、澁谷（2018:53）を参考に一部修正。

V：分析の結果：アンケートの結果

【子どもに将来働いてほしい職場】

- ・「自分の得意なことを生かせる職場」が最多(178件)、
「学んだ技術や専門知識を生かせる職場」が次に多い(97件)。



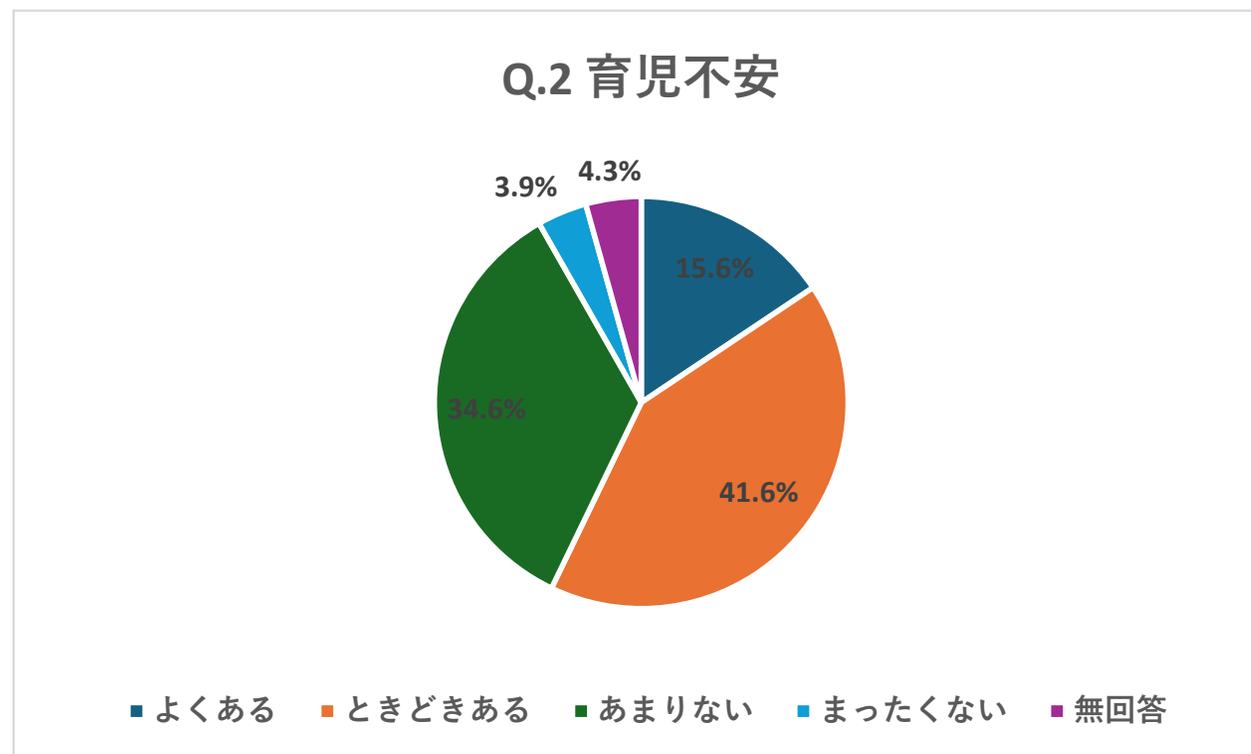
*ここでの選択肢は、多喜(2015:88)をもとに一部修正したものである。

V：分析の結果：アンケートの結果

【家庭での育児の負担】

・過半数の保護者が、中学生の子どもの育児において不安感を抱いている。

→「ふだん、中学生のお子様のごことでどうしたらよいかわからなくなることがありますか」という質問に対して、「よくある」15.6%、「ときどきある」41.6%。

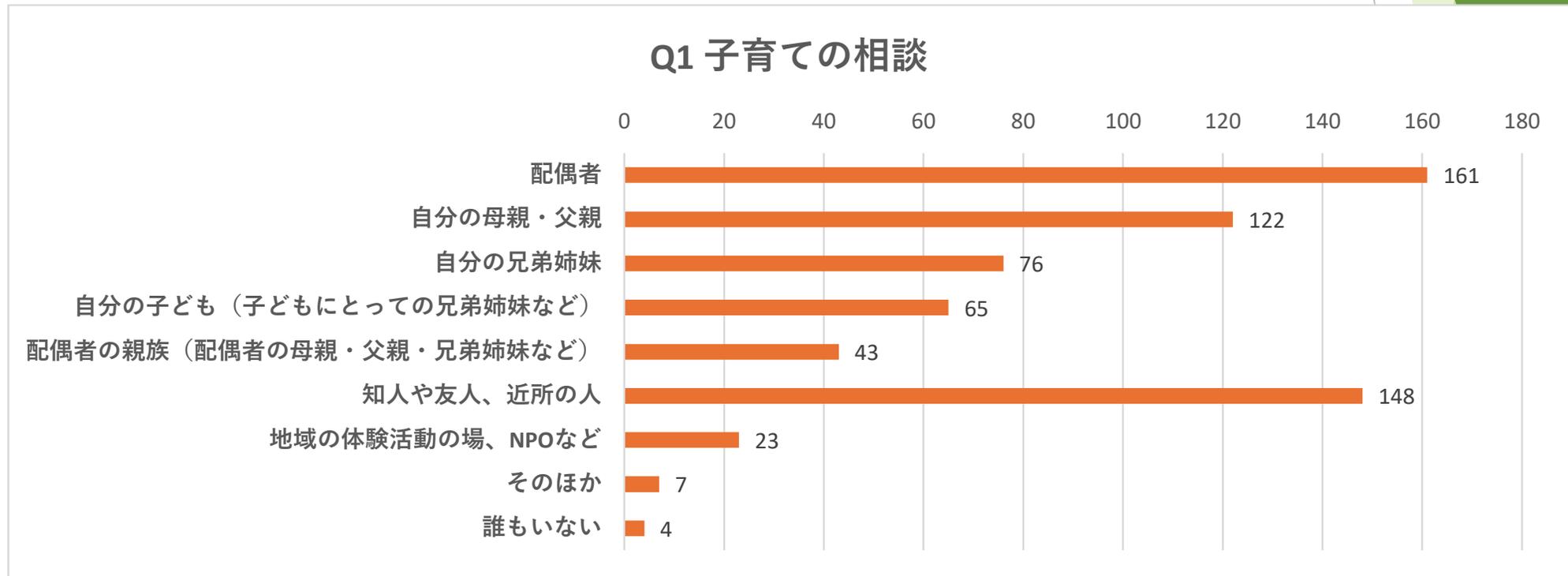


V：分析の結果：アンケートの結果

【子育ての相談】

・中学生のお子様の子育ての相談に乗ってくれる、中学生の教職員以外の方について、「配偶者」が一番多い（161件）。また、「自分の母親・父親」（122件）、「知人や友人、近所の人」（148件）も比較的多い。

⇨地域の体験活動の場、NPOなどが少ない（23件）。



V：分析の結果：アンケートの結果

【家庭での子育て支援と子どもの多様な学力】

(以下、 χ^2 検定で10%水準で有意なもののみ掲載。また「無回答」「非該当」は分析対象から除外)

I：配偶者に子育ての相談に乗ってもらっている場合の方が、
子どもが自分の長所を見出すことが得意な傾向。

*ここでは、家庭での子育ての相談に乗ってくれる最大件数の配偶者、家庭外での子育ての相談に乗ってくれる最大件数の知人や友人、近所の人を、それぞれ家庭での子育て支援、家庭外からの子育て支援の担い手として、分析に使用。

		子どもが自分の長所を見出す力					
		得意	少し得意	どちらともいえない	少し苦手	苦手	合計
配偶者に子育ての相談に乗ってもらっている	未選択	8	13	13	19	4	57
		14.0%	22.8%	22.8%	33.3%	7.0%	100.0%
	はい	15	65	37	26	6	149
		10.1%	43.6%	24.8%	17.4%	4.0%	100.0%
	合計	23	78	50	45	10	206
		11.2%	37.9%	24.3%	21.8%	4.9%	100.0%

V：分析の結果：アンケートの結果

【家庭での子育て支援と子どもの多様な学力】

2：配偶者に子育ての相談に乗ってもらっている場合の方が、
子どもが他人の意見を聞くことについて得意な傾向。

		子どもの他人の意見を聞く力					
		得意	少し得意	どちらともいえない	少し苦手	苦手	合計
配偶者に子育ての相談に乗ってもらっている	未選択	12	15	13	13	4	57
		21.1%	26.3%	22.8%	22.8%	7.0%	100.0%
	はい	43	53	30	14	9	149
		28.9%	35.6%	20.1%	9.4%	6.0%	100.0%
	合計	55	68	43	27	13	206
		26.7%	33.0%	20.9%	13.1%	6.3%	100.0%

V:分析の結果:アンケートの結果

【家庭での子育て支援と子どもの多様な学力】

3:配偶者に子育ての相談に乗ってもらっている場合の方が、
子どもが基礎学力について得意な傾向。

		子どもの基礎学力					
		得意	少し得意	どちらともいえない	少し苦手	苦手	合計
配偶者に子育ての 相談に乗ってもらっている	未選択	9	9	10	10	19	57
		15.8%	15.8%	17.5%	17.5%	33.3%	100.0%
	はい	24	39	36	27	23	149
		16.1%	26.2%	24.2%	18.1%	15.4%	100.0%
	合計	33	48	46	37	42	206
		16.0%	23.3%	22.3%	18.0%	20.4%	100.0%

V:分析の結果:アンケートの結果

【家庭での子育て支援と子どもの多様な学力】

4:配偶者に子育ての相談に乗ってもらっている場合の方が、
子どものIT機器を活用する力が顕著に苦手な割合が少ない傾向。

		IT機器を活用する力					合計
		得意	少し得意	どちらともいえない	少し苦手	苦手	
配偶者に子育ての相談に乗ってもらっている	未選択	11	21	15	6	4	57
		19.3%	36.8%	26.3%	10.5%	7.0%	100.0%
	はい	23	60	52	13	1	149
		15.4%	40.3%	34.9%	8.7%	0.7%	100.0%
	合計	34	81	67	19	5	206
		16.5%	39.3%	32.5%	9.2%	2.4%	100.0%

V：分析の結果：アンケートの結果

【家庭以外からの子育て支援と子どもの多様な学力】

5：近所の人、知人や友人に子育ての相談に乗ってもらっている場合の方が、子どもがさまざまな考えの人と交流するのが得意な傾向。

		さまざまな考えの人と交流する子どもの力					
		得意	少し得意	どちらともいえない	少し苦手	苦手	合計
近所の人や友人・知人に相談に乗ってもらっている	未選択	3	27	19	11	9	69
		4.3%	39.1%	27.5%	15.9%	13.0%	100.0%
	はい	28	46	40	19	4	137
		20.4%	33.6%	29.2%	13.9%	2.9%	100.0%
	合計	31	73	59	30	13	206
		15.0%	35.4%	28.6%	14.6%	6.3%	100.0%

V:分析の結果:アンケートの結果

【家庭以外からの子育て支援と子どもの多様な学力】

6:近所の人、知人や友人に子育ての相談に乗ってもらっている場合の方が、語学力がやや二極化する傾向(「少し得意」、「少し苦手」が顕著に多い)。

		語学力					
		得意	少し得意	どちらともいえない	少し苦手	苦手	合計
近所の人や友人・知人に相談に乗ってもらっている	未選択	6	10	32	12	9	69
		8.7%	14.5%	46.4%	17.4%	13.0%	100.0%
	はい	8	35	35	38	21	137
		5.8%	25.5%	25.5%	27.7%	15.3%	100.0%
	合計	14	45	67	50	30	206
		6.8%	21.8%	32.5%	24.3%	14.6%	100.0%

Ⅵ：まとめと考察

【要約】

1:家庭での保護者からの働きかけにおいては、よいことをしたときに褒める、やる気にならないときも意欲を引き出す、よくないことをしたときも理由を説明して注意する割合が高い。

⇨よくないことをしたときに、あえて子どもに考えさせることが少なく、また怒りの感情を子どもに向けたり、疲労ゆえに子どもから距離をおく割合は高め。

2:子どもの将来の進路としては、子どもの得意なことを生かした職場、学んだことを生かした職場を希望。

3:家庭でのケアに関しては、家族の家事の手伝いや家族の話を聞いている割合が一定程度ある一方で、何もしていない者も一定割合存在。

4:他者を助ける、他者に配慮して自己の感情コントロールをする力、礼儀正しさを得意とする傾向。

⇨基礎学力や単純なことを継続する力、創造力や意見の発信が苦手な傾向。

Ⅵ：まとめと考察

【要約】

5:4の多様な学力の手段となりうる経験として、習い事やスポーツクラブ、家族での旅行や自然・芸術鑑賞、家族の手伝い、保護者から子への学習の助言は相対的に多い。

⇔職業体験や外国人との交流の機会が少ない。

6:4について、学習の助言や手伝いにおいては子どもがなかなか本気にならないことが学習塾では金銭面、習い事、スポーツクラブ、家族での旅行や自然・芸術鑑賞では金銭面に加えて移動が負担に。

習い事、スポーツクラブでは、自身が十分に休息をとれないことも負担に。

・子どもの喧嘩と仲直りにおいては、他の子どもの保護者との人間関係が負担に。

50件以上選択が基準

Ⅵ：まとめと考察

【全体像】

・他者への支援・配慮に関する学力が秀でている一方、課題を処理する学力、新たなことを創造する力に課題。

→

・家庭での家族の話や家事の手伝いを通じて、他者に対する配慮や話を聞く力などの他者支援の力につながっている可能性。

⇔

・新たなことを創造する力の不足の背景に、家庭で子ども自身に考えさせる機会の不足。

・子どもの意欲の引き出しに家庭で取り組んでいる一方、学習や手伝いで子どもの意欲不足に悩むことも。

・家庭以外については、子どもの他者への配慮、聞く力が優れている一方で、自身の意見の発信がやや苦手で他の子どもとの喧嘩に際しての他の保護者との人間関係の調整が負担に。

・学習塾や習い事については、金銭面や自身の休息という、対人関係とは別の課題も発生。

Ⅵ：まとめと考察

【全体像】

⇔

・一方、現代社会においては、創造力、さらに従来型の課題を処理する力（認知的な学力）も求められ（山田2016）、以上と結びつく子どもの意欲も重要。

・（多くの保護者が希望している）子どもの将来の進路において、学んだことを生かすならば、基礎学力もある程度求められる可能性。

→以上の学力の実現のためには、金銭面での負担や自身の労働の負担、そして他の子どもの保護者との交流も必要になる可能性。

⇔

・家庭外からの子育ての支援（相談に乗ってくれる場）としては、学校以外では近しい関係の者が中心（親族・友人や知人、近所の人など）。

⇔一定の距離のあるNPOや地域の体験活動の場などに相談する割合が少ない。

→近しい関係であるがゆえに、相談しづらい可能性も。

⇒

・以上が保護者の子育てにおける悩みを生んでいる可能性。

Ⅵ：まとめと考察

【全体像】

・子ども同士の意見の調整、多様な人との交流（外国人との交流、親族以外の地域の大人との交流、他の学校の子どもとの交流、ボランティア、他の子どもとの喧嘩と仲直りの経験）において、親の経験の有無が子どもの経験の有無にも影響を与える世代間の再生産の傾向（機会の不平等の傾向）が顕著。

片方が50%未満、片方が50%以上で30%以上の格差ありが基準

・配偶者からの支援（家族からの主な支援）は、子どもの他人の意見を聞く力、長所を見出す力、基礎学力の相対的な高さと同居。

・地域の人、友人や知人からの支援（家族外からの主な支援）は、子どもの様々な考えの人との交流する力の相対的な高さと同居。

VII: 今後の提言

【目指すべき社会像】

1: 子どもの多様な学力について

- ・子どもの長所である他者への配慮の力を引き出す支援の必要性。
(×創造力・発信力や基礎学力の形成に偏った支援)。
- ・子どもの課題である創造力・発信力を形成する支援の必要性
- ・子どもの課題である基礎学力の形成を行う支援の必要性。

2: 子どもの多様な学力の形成の支援につながる場所について

- ・家庭と一定の距離のある地域の相談の場の確保の必要性。

→

- ・自分の休息がとれない、金銭的な負担を伴う子どもの経験の必要性や活用方法に関する助言、他の子どもの保護者との対人関係や経験の種類ごとの子どもの意欲の引き出しに関する助言、悩みの傾聴。

VII: 今後の提言

【実現のための手段】

- ・家族と一定の距離のある相談機関の情報についての行政による広報。
 - 利用料について、内容を審査したうえでの公的助成による減免。
 - 現場にとっての行政から審査を受ける負担も考慮し、審査手続きをIT化。

- ・年長の子どもから年少の子どもに対する学習支援。
 - 中学生が得意とする傾向にある他者を支援する力を生かし、
(他人に教えることを通じた) 相対的に苦手とする傾向にある基礎学力の向上につなげる。

- ・大学や地域の職場、文化施設と中学生との交流。
 - 経験の機会を増やす+大学と交流する中での経験を整理する力の養成。
 - 創造力や基礎学力、そして子どもの意欲の向上に結び付く。

引用文献

- ・今井悠介『体験格差』講談社現代新書、2024.
- ・尾嶋史章編著『現代高校生の計量社会学』、ミネルヴァ書房、2001.
- ・澁谷智子『ヤングケアラー—介護を担う子ども・若者の現実』中央公論新社、2018.
- ・多喜弘文「高校生の職業希望における多次元性」中澤渉・藤原翔編著『格差社会の中の高校生』勁草書房、81-95頁。
- ・額賀美紗子「アメリカの市場型教育改革と多様性をめぐるポリティクス：バイリンガル教育の展開にみるマイノリティ言語の価値闘争」『教育社会学研究』、2020、106-121頁。
- ・濱田江里子・金成垣「社会的投資戦略の総合評価」三浦まり編『社会への投資』岩波書店、2018、3-30頁。
- ・松田茂樹「現代家族の子育て事情」松信ひろみ編『近代家族のゆらぎと新しい家族のかたち』、八千代出版、2016、99-115頁。
- ・山田哲也「PISA型学力は日本の学校教育にいかなるインパクトを与えたか」『教育社会学研究』98号、2016、5-28頁。

今回の研究報告は、令和6年10月11日～11月18日に、島根県A市の中学生の保護者全員に向けて配信したアンケート調査に基づくものです。

アンケート調査にご協力いただきました、A市の中学生の保護者のみなさま、調査の案内をしていただきましたA市教育委員会のみなさま、オンライン調査の実施・データ入力をいただきました株式会社マイビジネスサービスさまに、この場を借りて御礼申し上げます。